CZ-431-044
1200901599232

遠洋漁業奬勵法及關係法規

昭三年四月現行

農商務省水産局

14.7-279

遠洋漁業奬勵法及關係法規

目次

遠洋漁業奬勵法……一
大正三年勅令第三十九號……三
遠洋漁業奬勵法施行細則……四
遠洋漁船檢査規程……五
漁獵職員試驗規程……五
遠洋漁業練習生規程……四
漁船檢査規程……八
木船檢査規程……一八

大臣
3. 5. 12
内交

遠洋漁業奬勵法及關係法規

○遠洋漁業奬勵法

明治三十八年三月一日公布法律第四十號
改正（明治四十二年四月十三日公布法律第三十七號
明治四十三年三月二十五日公布法律第二十號
大正三年三月十二日公布法律第六號）

第一條　遠洋漁業ヲ奬勵スル爲國庫ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ毎年度二十萬圓以内ヲ支出ス（四十三年法律第二十號ヲ以テ「十五萬圓」ヲ「二十萬圓」ニ改ム）

第二條　本法ニ依リ奬勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條　主務大臣ハ遠洋漁船檢査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ其ノ業務ノ種類、場所、期間並船舶ノ構造、噸數及年齡ニ從ヒ率ヲ定メ五箇年ヲ超エサル期間ニ於テ漁業奬勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一汽船總噸數毎一噸　二十二圓

一帆船總噸數每一噸　十八圓

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類、場所、方法又ハ漁獲物ノ販路ニ付特ニ條件ヲ指定シ前項ノ率及定額ニ依ラスシテ漁業奬勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ第一條ノ豫算定額ノ十分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス（大正三年法律第六號ヲ以テ本項ヲ加フ）

奬勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船員ハ其ノ五分ノ四以上帝國臣民タルコトヲ要ス（大正三年法律第六號ヲ以テ「前項ニ掲ケタル」ヲ「奬勵金ヲ受クヘキ」ニ改ム）

第四條　主務大臣ハ前條ノ奬勵金ヲ受クヘキ者ニ對シ其漁獵船ニ命令ヲ以テ定ムル資格ヲ有スル漁獵職員ヲ乘組マシムルコトヲ命スルコトヲ得（大正三年法律第六號ヲ以テ本條全部改正）

第五條　主務大臣ハ遠洋漁船檢査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ若ハ新造セシメ又ハ日本船舶ニ新造ノ機關、冷藏機械、副漁具ヲ据附ケ若ハ据付ケシメタル船舶所有者ニ對シ其ノ噸數、馬力、冷却力、評價額ニ從ヒ率ヲ定メ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一船體總噸數每一噸	（鐵、鋼製	四十圓
	木鐵交造又ハ木鋼交造	三十五圓
	木製	三十圓
一蒸氣機關實馬力每一馬力		十五圓
一發動機關純馬力每一馬力		二十圓
一冷藏機械冷却力製氷量每一噸		千圓
一副漁具		評價額ノ十分ノ二

主務大臣ハ船舶ノ用途及設計ヲ參酌シ前項奬勵金ノ率ニ差等ヲ設クルコトヲ得

主務大臣ハ漁船ノ改良ニ關シ特ニ其ノ指定シタル方法及設計ニ依リ總噸數五十噸未滿ノ日本船舶ヲ新造シ若ハ新造セシメタル船舶所有者ニ對シ其ノ船舶新造費ノ三分ノ一以內ノ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得

前項ニ依リ漁船奬勵金ヲ下付シタルトキハ第一項ノ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得ス（四十二年法律第三十七號ヲ以テ本條全部改正但シ四十三年法律第二十號ヲ以テ第二項ヲ、大正三年法律第六號ヲ以テ第一項中「新造ノ機關、冷藏機械」ノ下ニ「副漁具」ヲ、「馬力、冷却力」ノ下ニ「評價額」ヲ加ヘ同項ニ第五號ヲ加フ）

第六條　第三條第一項又ハ第五條ノ奬勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業及副漁具ノ種類並船舶ノ噸數、機關ノ馬力及冷藏機械冷却力製氷量ノ噸數ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム漁獵業ノ種類ニ依リ其ノ漁獵ノ場所ヲ制限スルノ必要アルトキ亦同シ（大正三年法律第六號ヲ以テ本項全部改正）

遠洋漁船檢査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條　漁業將勵金ヲ受クヘキ漁獵業者又ハ漁獲物處理運搬業者每業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ其ノ期間ニ對スル奬勵金ヲ下付セス但シ船舶ノ沈沒、破壞若ハ行衞不明又ハ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ業務ニ從事スルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス（大正三年法律第六號ヲ以テ本條第二項ヲ削ル）

第八條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船奬勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外每年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル漁獵又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條　主務大臣ハ漁業奬勵金ヲ受クル者又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業奬勵金ヲ受クル者ノ使用スル船舶又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシムルコトヲ得

第十一條　遠洋漁業ノ指導監督、遠洋漁業練習生ノ養成及漁港ノ調査若ハ設計ノ爲必要ナル費用ハ第一條ノ金額中ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得（四十三年法律第二十號ヲ以テ本項ヲ改正ス）

主務大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ漁船船員ノ養成及接濟ノ業務ヲ執行スル營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ第一條ノ金額ヨリ其ノ十分ノ一以內ヲ下付スルコトヲ得（四十二年法律第三十七號ヲ以テ本項ヲ加フ）

第十二條　主務大臣ハ漁業奬勵金ヲ受クル者又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル者

及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ奬勵金ノ下付ヲ廢止シ又ハ其ノ既ニ受ケタル金額ノ償還ヲ命スルコトヲ得（大正三年法律第六號ヲ以テ「奬勵金ノ下付ヲ廢止スルコトヲ得」ヲ「奬勵金ノ下付ヲ廢止シ又ハ其ノ既ニ受ケタル金額ノ償還ヲ命スルコトヲ得」ニ改ム）

第十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ奬勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（四十三年法律第二十號ヲ以テ本條中「重禁錮」ヲ「懲役」ニ改ム）

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂サル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條　主務大臣ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ奬勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因テ得タル金額、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ（大正三年法律第六號ヲ以テ本條第二項及第三項ヲ刪レ）

第十六條　第十三條及前條ノ償還金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス（大正三年法律第六號ヲ以テ本條ヲ加フ）

第十七條　當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス（四十三年法律第二十號ヲ以テ本條中「禁錮」ヲ「懲役、禁錮」ニ改ム）

第二十條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス但シ本法施行前ニ於テ奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ許可期間內ハ仍從前ノ規程ヲ適用ス（四十三年法律第二十號ヲ以テ本條中「八箇年」ヲ「十五箇年」ニ改ム）

第二十二條　總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ關シ本法ニ依リ奬勵金ヲ受ケ又ハ受ケムトスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶檢査法、船舶職員法、船舶法及船員法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

（參考　改正法律附則）

四十二年法律第三十七號附則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

四十三年法律第二十號附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年法律第六號附則

本法施行前漁獵職員奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ期間仍從前ノ例ニ依ル

○大正三年勅令第三十九號

大正三年三月二十四日公布

第一條　遠洋漁業奬勵法第三條第一項又ハ第五條ノ奬勵金ヲ下附スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類左ノ如シ

一帆船鯨獵業
二汽船又ハ帆船旋網漁業
三帆船曳網漁業
四汽船又ハ帆船流網漁業
五汽船又ハ帆船刺網漁業
六汽船又ハ帆船延繩漁業
七汽船又ハ帆船一本釣漁業
八汽船又ハ帆船鰹釣漁業

第二條　遠洋漁業奬勵法第五條ノ奬勵金ヲ下附スルコトヲ得ヘキ副漁具ノ種類ハ「ラインホーラー」「ネットホーラー」「キヤプスタン」又ハ「ウインチ」トシ前條ノ漁業ニ使用スル船舶ニ据付クヘキモノニ限ル

前項ノ副漁具ヲ運轉スル機械ハ主トシテ之カ爲ニ使用スルモノニ非サレハ之ヲ其ノ一部ト看做サス

第三條　遠洋漁業奬勵法第三條第一項又ハ第五條ノ奬勵金ハ左ニ揭クル定限ヲ超ユル船舶ノ噸數、機關ノ馬力及冷藏機械冷却力製氷量ノ噸數ニ付テハ之ヲ下付セス

一　船舶　總噸數三百五十噸

二　機關

蒸汽機關　實馬力　五百馬力

發動機關　純馬力　二百馬力

三　冷藏機械冷却力製氷量　五噸

附　則

本令ハ大正三年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前遠洋漁業奬勵金ト附ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ許可期間仍從前ノ例ニ依ル

○遠洋漁業奬勵法施行細則

明治四十二年六月二十八日農商務省令第二十九號（全部改正）
大正元年十月四日農商務省令第八號（一部改正）
大正三年三月三十日農商務省令第九號（一部改正）

第一條　漁業奬勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　書式第二號ニ依ル業務目論見書

二　總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫又ハ漁船檢査證書寫、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ船鑑札寫又ハ漁船檢査證書寫

出願人カ法人ナルトキハ前項書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿ヲ願書ニ添付スヘシ但シ定款又ハ契約書ニ於テ其ノ法人又ハ組合ハ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ明示セル場合ニ於テハ社員名簿、株主名簿又ハ組合員名簿ヲ添付スルコトヲ要セス

第二條　漁船奬勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類

ヲ添ヘシヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添付書類ハ各二通ヲ要ス

一　第一條第一號ノ書類

二　書式第五號ニ依ル船舶件名書

三　圖面

四　製造据付仕樣書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號圖面ハ船舶ヲ新造スル者ニ在リテハ船體線圖、船體中央横截面圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙內平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖若ハ冷藏裝置圖、船舶ニ新造ノ機關若ハ冷藏機械ヲ据付クル者ニ在リテハ機關室又ハ冷藏機械室ノ横截面圖、冷藏裝置圖、船體各甲板平面圖、艙內平面圖、裝帆圖、汽機圖及汽罐圖又ハ發動機圖、船舶ニ新造ノ副漁具ヲ据付クル者ニ在リテハ副漁具圖、副漁具ノ運轉ニ主トシテ使用スル機械圖、副漁具ノ運轉ニ要スル裝置圖ノ各種ニ分チ其ノ寸法ヲ附記シ汽機圖ニハ汽機縱横平面各截面並冷汽器附屬喞筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱横截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

第一項出願人ニシテ遠洋漁業奬勵法第五條第三項ニ依ルモノハ船體、機關、副漁具、屬具ノ製造ニ要スル經費豫算書ヲ差出スコトヲ要ス

第三條　農商務大臣第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ漁業奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ但シ業務設備又ハ船舶ヲ檢査スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ指定シタル官吏又ハ管海官廳ヲシテ遠洋漁船檢査規程ニ依リ檢査ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條　農商務大臣第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ漁船奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第四條ノ二　農商務大臣前二條ニ依リ奬勵金下附ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付シタルトキハ其ノ旨出願人ノ住所又ハ業務執行ノ爲設ケタル事務所所在地ノ管轄地方長官ニ通知スヘシ

第五條　前條ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農商務大臣ノ指定シタル時期ニ於テ船舶ノ新造、機關、冷藏機械又ハ副漁具ノ据付ニ關シ遠洋漁船檢査規程ニ依リ管海官廳又ハ主務大臣ノ指定シタル官吏ノ檢査ヲ受クヘシ

第六條　第四條ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造、機關、冷藏機械又ハ副漁具ノ据付ニ關スル仕樣ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ檢査官吏カ其ノ變更ニ困リ船體、幾關、冷藏機械又ハ副漁具ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船奬勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條　第五條ニ依ル檢査ヲ終リタルトキハ檢査官吏ハ書式第六號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第八條　農商務大臣必要アリト認メタルトキハ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可期間內、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニ對シ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間何時ニテモ其ノ船舶ノ業務設備檢査ヲ執行スルコトアルヘシ

農商務大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ補充ヲ爲スヘキ旨ヲ業務主ニ命スルコトアルヘシ

第九條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間內、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年內ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタリ日ヨリ三十日以內ニ其ノ旨農商務大臣ニ屆出ツヘシ

一　業務ヲ廢止シタルトキ

二　法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタルトキ

三　船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ

四　船舶カ滅失、沈沒シ若ハ行衞不明トナリタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

五　船體、機關又ハ冷藏機械ノ現狀ニ重要ナル變更ヲ爲シタルトキ

六　船舶檢查證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ

七　前各號ノ外奬勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破產管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條ノ二　漁船奬勵金ヲ受ケ機關、冷藏機械又ハ副漁具ヲ据付ケ若ハ据

付ケシメタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人カ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ機關、冷藏機械又ハ副漁具ヲ船舶ヨリ除去セムトスルトキハ書式第十三號ニ依ル願書ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

農商務大臣ハ前項ノ認可ヲ與フルニ當リ之ニ條件ヲ付スルコトアルヘシ

第十條　漁業奬勵金又ハ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨農商務大臣ニ屆出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條ノ二　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ業務目論見書ニ記載シタル業務ノ種類、業務ノ期間又ハ業務ノ場所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ船舶ヲ使用シテ其ノ變更セムトスル業務目論見ニ從テ爲ス漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ付漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滯ナク書式第七號ニ依ル屆書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業奬勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務ニ從事スルトキ碇泊日數五日以上ニ亘ルトキハ帝國ニ在リテハ警察本分署、巡査駐在所又ハ町村役場、外國ニ在リテハ帝國領事館又ハ民政署ニ屆出テ其ノ證明ヲ受クヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ證明ヲ受クルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者每業務期間ニ於ケル業務ヲ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ハ帝國ニ在リテハ警察本分署、巡査駐

在所又ハ町村役場、外國ニ在リテハ帝國領事館又ハ民政署ニ業務日誌ヲ差出シ其ノ證明ヲ受クヘシ

第十五條　業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水、糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農商務大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十六條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ其ノ業務ニ從事シタル者ニシテ業務期間ヲ終リタルトキハ書式第八號ニ依ル請求書ニ業務日誌及其ノ業務開始ニ關スル官公署ノ證明書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ奬勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ業務開始ニ關スル證明書ハ書式第十二號ノ申請書ヲ第十三條ニ定メタル官公署ニ差出シテ之ヲ受クヘシ

第十七條　漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ竣工證明書ヲ受ケタルトキハ書式第九號ニ依ル請求書ニ其ノ證明書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ奬勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　（削除）

第十九條　遠洋漁業奬勵法第七條但書ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ事由ヲ推定スヘキ證據書類ヲ添ヘ奬勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第二十條　遠洋漁業奬勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄奬勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十條ノ二　遠洋漁業奬勵法第四條ノ漁獵職員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル免狀ヲ有スル者トス

一　甲種漁獵長免狀
二　乙種漁獵長免狀
三　丙種漁獵長免狀
四　漁獵手免狀

第二十一條　漁獵職員試驗ハ農商務大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ執行ス

第二十二條　漁獵職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日迄ニ書式第十一號ニ依ル願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

漁獵職員免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二箇

年間、免狀ノ行使停止中ノ者又ハ第二十六條第二項ニ依リ免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ前條ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二十三條　漁獵職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且漁獵長試驗ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ年齡滿二十年以上、漁獵手試驗ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ年齡滿十八年以上タルコトヲ要ス但シ上級漁獵職員試驗ヲ受クル履歷ヲ有スル者ハ下級漁獵職員試驗ヲ受クルコトヲ得

甲種漁獵長試驗

一　乙種漁獵長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ其ノ職ヲ執リタルコト

二　各種船長、各甲種一等運轉士、各甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ嘗テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三　前號船舶職員ノ試驗ヲ受クルニ適合スル履歷ヲ有シ內二箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

四　水產講習所漁撈科、東北帝國大學農科大學附設水產學科漁撈部卒業證書ヲ有シ嘗テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

乙種漁獵長試驗

一　丙種漁獵長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵長又ハ漁獵手ノ職ヲ執リタルコト

二　乙種二等運轉士又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三　前號船舶職員ノ試驗ヲ受クルニ適合スル履歷ヲ有シ內二箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

四　水產講習所漁撈科、東北帝國大學農科大學附設水產學科漁撈部卒業證書ヲ有シ嘗テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

丙種漁獵長試驗

一　漁獵手免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ其ノ職ヲ執リタルコト

二　三箇年以上航洋帆船ニ乘組ミ運航ニ從事シ內一箇年以上遠洋漁獵船

二　ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

三　四箇年以上沖合漁業ニ從事シ及一箇年以上航洋帆船ニ乘組ミ運航ニ從事シタルコト

四　道府縣立學校又ハ講習所ノ遠洋漁業科卒業證書ヲ有シ嘗テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シタルコト

五　道府縣水產試驗場ニ於テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵、航海ニ關スル技術ヲ練習シタルコト

三　漁獵手試驗

一　二箇年以上航洋船ニ乘組ミ運航ニ從事シ內一箇年以上遠洋漁獵船ニ乘組ミ漁獵ニ從事シ又ハ四箇年以上沖合漁業ニ從事シタルコト

二

第二十四條　農商務大臣ハ漁獵職員試驗ニ合格シタル者ニ對シ相當ノ免狀ヲ交付スヘシ

第二十五條　農商務大臣ハ遠洋漁業練習生ノ修業證書又ハ水產講習所遠洋漁業科ノ修業證書ヲ有スル者ニ對シ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ免狀ヲ交付スルコトヲ得

農商務大臣ハ允當ト認ムル道府縣立學校又ハ講習所ノ遠洋漁業科ノ卒業證書ヲ有スル年齡滿二十年以上ノ者ニ對シ試驗ヲ用ヰスシテ丙種漁獵長免狀ヲ交付スルコトヲ得

第二十六條　農商務大臣ハ漁獵職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ免狀ノ行使ヲ停止シ又ハ免狀ノ返納ヲ命スルコトヲ得

一　遠洋漁業奬勵法又ハ同法ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者

二　海員懲戒法ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタル者

詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スヘシ

第二十七條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期間ヲ終リタル日ヨリ二箇月以內ニ業務收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二箇月以內ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十八條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ每年一

回其ノ業務報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ其ノ業務主ニシテ前條ノ適用ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間內、漁船奬勵金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノトキヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

農商務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年內ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第三十一條　遠洋漁業奬勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長及漁獵長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滯ナク其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十二條　遠洋漁業奬勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間內ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第三十三條　第九條乃至第十二條、第二十七條乃至第三十條ノ規程ニ違反シ若ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

（明治四十二年農商務省令第二十九號ノ附則）

本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行以前ニ於テ奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間內ニ在ル者ハ舊施行細則第二十一條、第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依ルコトヲ妨ケス

本則施行ノ際船舶カ現ニ受有スル遠洋漁船檢査證書ハ之ニ記載スル航行期間內ニ限リ仍效力ヲ有ス

前項ニ揭クル遠洋漁船檢査證書ノ返納、書換及再交付ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

（大正元年農商務省令第八號ノ附則）

本令ハ大正元年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（大正三年農商務省令第九號ノ附則）

本令ハ大正三年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前漁獵職員奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ期間仍從前ノ例ニ依ル

（書式）第一號

漁業奬勵金下付願

今般遠洋漁業奬勵法ヲ遵守シ所有（何縣何郡何村何番地何某所有）ノ汽（帆）船何丸ヲ以テ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候ニ付漁業奬勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所

氏　名㊞

農商務大臣　殿

第二號

業務目論見書

一　業務ノ種類（漁獵業ニ在リテハ漁獵ノ種類）

二　漁獲物種類（處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ種類及處理運搬ノ方法）

三　漁獵具（處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ漁獵具）

四　業務期間

五　業務場所（處理運搬業ニ在リテ航路ヲ定メタルトキハ其ノ航路）

六　船員職務別及員數（漁業奬勵金下付出願ノ場合ニハ漁獵職員免狀又ハ海技免狀ヲ有スル船員ノ免狀ノ種類、番號及氏名ヲ記シ又船員中外國人アルトキハ其ノ員數）

七　業務豫算

一　起業費

二　收支

三　損益

第四號

漁船奬勵金下付願

今般遠洋漁業奬勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造（新造機關、冷藏機械又ハ副漁具ヲ据付）候ニ付漁船奬勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所

遠洋漁業奬勵法施行細則

第五號

農商務大臣　殿

氏　名㊞

船舶件名書

一　船種及船名
二　船體ノ長、幅、深
三　外板及船骨材料
四　總噸數（計畫又ハ現在）
五　速力（計畫又ハ現在）
六　機關ノ種類及數
七　實馬力又ハ純馬力（計畫又ハ現在）
八　冷藏機械ノ種類及冷却力製氷量（計畫又ハ現在）
九　副漁具ノ種類及數
十　豫定起工年月日
十一　豫定竣工年月日
十二　製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
十三　製造又ハ据付ノ場所

第六號

竣工證明書

一　奬勵金下付許可ノ目的物
二　船種、船名及資格
三　總噸數
四　機關ノ種類及數
五　實馬力又ハ純馬力
六　冷藏機械ノ種類及冷却力製氷量
七　副漁具ノ種類及數
八　竣工年月日
九　製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
十　所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

右檢査ヲ遂ケ遠洋漁船檢査規程ニ合格セルコトヲ證ス

年　月　日

檢査官吏　氏　名㊞

第七號

船舶所有權移轉屆

遠洋漁業奬勵法施行細則

一　本船番號（船舶檢査證書又ハ船艦札記載ノ番號）
二　船種、船名

右ハ年月日遠洋漁業奬勵法ニ依リ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御屆候也

年　月　日

族籍住所
（賣主）　氏　名㊞
族籍住所
（買主）　氏　名㊞

農商務大臣　殿

第八號

漁業奬勵金請求書

一金　圓　漁業奬勵金
汽（帆）船　丸　總噸數何噸

何年何月何日付農商務省指令水第　號ヲ以テ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候處今般業務ヲ終了候ニ付前記奬勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所
氏　名㊞

農商務大臣　殿

第九號

漁船奬勵金請求書

一金　圓　漁船奬勵金
汽（帆）船　丸

內
金　圓　船體總噸數何噸ニ對スル分
金　圓　機關實（純）馬力何馬力ニ對スル分
金　圓　冷藏機械冷却力製氷量何噸ニ對スル分
金　圓　副漁具何々何臺ニ對スル分

何年何月何日付農商務省指令水第　號ヲ以テ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ遠洋漁船建造（機關、冷藏機械、副漁具據付）中ノ處今般竣工致候ニ付前記奬勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所

第十一號

漁獵職員試驗願

農商務大臣　殿

族籍住所
氏名㊞
生年月日

今般何種漁獵長(漁獵手)試驗相受度別紙履歷書ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

農商務大臣　殿

氏名㊞

(別紙)

履歷書

一　漁獵又ハ航海ニ關スル事項
二　學校、講習所等ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫
三　海技免狀ヲ有スル者ハ其ノ寫

第十二號

業務開始證明申請書

業務主
船主、船名
業務種類
出帆地名
出帆年月日
乘組員數

但シ漁獵職員ノ氏名免狀ノ種類番號左ノ如シ

免狀番號	免狀ノ種類	氏名

備考漁獲物處理運搬船ニ在リテハ海技免狀受有者ノ氏名、免狀ノ種類、番號ヲ記スヘシ

右御證明相成度遠洋漁業奬勵法施行細則第三條ニ依リ此段申請候也

年　月　日

(船長又ハ漁獵長)
(申請者)　某㊞

第十三號

機關(冷藏機械又ハ副漁具)除去認可願

汽(帆)船何丸据付機關(冷藏機械副漁具)

遠洋漁業奬勵法施行細則

右ハ何年何月何日漁船奬勵金ノ下付ヲ受ケタルモノニ有之候處今般左記ノ事由ニ依リ該機關（冷藏機械又ハ副漁具）除去致度候ニ付御認可相成度此段相願候也

年　月　日

住所

氏名㊞

農商務大臣　殿

何々　記

○遠洋漁船檢査規程

大正三年三月三十日（全部改正）農商務省第九號

第一章　總則

第一條　遠洋漁業奬勵法ニ依ル遠洋漁船ノ船體、機關、冷藏機械又ハ副漁具竝業務設備ノ檢査ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　鐵製、鋼製、木鐵交造、木鋼交造及木製汽船竝第二數四千以上ノ木製帆船ノ船體竝發動機及蒸汽機關ハ本規程ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外漁船檢査規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第三條　汽船及第二數四千以上ノ帆船ハ漁船檢査規程ニ定メタル第二級漁船以上ノ資格ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第四條　遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、賄室、燈具室及便所ヲ除クノ外甲板室ヲ設クヘカラス但シ漁獲物處理運搬船又ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五條　遠洋漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クヘカラス

第六條　帆船ハ長深ノ十倍未滿、長幅ノ四、五倍未滿、幅深ノ二、八倍未滿ト爲スヘシ但シ第二數三千未滿ノモノニ在リテハ長深ノ十三倍未滿、長幅ノ五倍未滿ト爲スコト爲スコト得

汽船ハ長深ノ十一倍未滿、長幅ノ六倍未滿、幅深ノ二、八倍未滿ト爲スヘシ但シ漁獲物處理運搬船ニ在リテハ長深ノ十三倍未滿、長幅ノ七倍未滿、ト爲スコトヲ得

檢査官吏ニ於テ船體ト壓艙物、帆面積又ハ乾舷高トノ關係ニ依リ復元力充分ナリト認メ且特別ノ補強構造ニ依リ强力充分ナリト認メタルモノハ前二項ニ該當セサルモ妨ナシ

第七條　遠洋漁船ニ搭載スル壓艙物カ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移裝置ヲ爲スヘシ

第八條　第一級漁船以外ノモノニシテ第二數八千未滿ノモノニ在リテハ甲板上ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造ヲ特ニ堅牢ニ爲スヘシ

第九條　汽船及第二數八千五百未滿ノ帆船ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ起倒シ得ヘキ檣ヲ用ウルコトヲ得

第十條　汽船又ハ補助機關ヲ有スル帆船ニシテ舵柱及舵心材ノ一部ヲ切取リ螺旋孔ト爲スモノニ在リテハ舵柱ノ寸法ヲ增シ船尾材ヲ附セサルコトヲ得

第十一條　第一級漁船以外ノモノニ在リテハ中舵ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ水密ニシテ堅牢ナル中舵箱ヲ作リ且龍骨及內龍骨ニ對スル補强構造ヲ爲スヘシ

第十二條　漁獲物處理運搬船ニハ活魚艙又ハ防熱裝置若ハ冷藏機械ノ設備ヲ爲スヘシ

前項ノ防熱裝置ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ木船ニ在リテハ其ノ兩側ニ於ケル裝置ハ檢査官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

一　隔壁及兩側ニ在リテハ毛紙ヲ挾ミタル板ヲ取付ケ適當ノ間隙ヲ隔テ同樣ノ板ヲ取付ケ其ノ間隙ニ木炭「コルク」「シリケートコットン」其ノ他適當ナル防熱物ヲ塡充スヘシ

二　甲板下ニ在リテハ梁ノ下面ニ毛紙ヲ挾ミタル板ヲ取付ケ梁間ニ前號ノ防熱物ヲ塡充スヘシ

三　艙口ノ蓋板ハ二重ニ之ヲ設クヘシ

第十三條　船體、發動機又ハ蒸汽機關ノ構造及寸法カ本規程ニ該當セサルトキト雖檢査官吏ニ於テ本規程ノ定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本規程ニ適合スルモノト看做ス

第二章　第二數四千未滿ノ木製帆船ノ船體

第十四條　本章ニ於テ第一數ト稱スルハ船ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ船ノ長、幅、深ヲ相乘シタル數ヲ謂フ

第二項ノ船ノ長、幅、深ハ呎ヲ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スルモノトス

第十五條　前條ニ於テ船ノ長ト稱スルハ甲板梁上ニ於テ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船又ハ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄、舵柱又ハ船尾材ヲ有セサルモノニ在リテハ船尾板ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ之ヲ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨又ハ敷ノ上面ヨリ甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第十六條　本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第十七條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ハ鐵板若ハ亞鉛板ヲ張リ又ハ

其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十八條　吸入瓦斯發動機ヲ據付クルモノニ在リテハ機關室ニ徑八吋以上ノ通風器ヲ一箇以上設クヘシ但シ檢査官吏ニ於テ之レト同等以上ノ效力アリト認ムル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ六吋以上ト爲スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノ又ハ第二數二千以下ノ漁船ニ在リテハ緣材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第二十條　甲板ニ設クル機關室口ニハ甲板上面ヨリ一呎半以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取付クヘシ

第二十一條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ樣覆布及適當ノ締具ヲ備フヘシ但シ檢査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

甲板上ノ機關室口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布並適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ檢

査官吏ニ於テ水密ト爲ス必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　曲材ハ總テ木目ノ貫通シタルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條　遠洋漁船ニハ船ノ全長ヲ通シテ水密構造ノ甲板ヲ設クヘシ但シ漁業上差支アルトキハ機關室以外ノ部分ニ於テ船ノ全長ノ三分ノ一未滿ハ甲板ヲ設ケサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支水隔壁ヲ設クヘシ

第二十五條　肋骨ノ截面及心距ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ外板ノ厚ヲ增トキハ其ノ割合ニ應シ截面ヲ減シ又ハ心距ヲ增スコトヲ得

機關室以外ノ場所ニ於テ隔壁間ニ設クル肋骨ハ其ノ心距ヲ適當ニ增加スルコトヲ得

第二十六條　單材肋骨ノ嵌接長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

單材肋骨ノ衝接ニハ肋材ト同截面ヲ有スル添材ヲ附シ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第二十七條　肋骨ハ龍骨及內龍骨ヲ貫通シ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ敷ヲ用ウルモノニ在リテハ六吋以內ノ心距ニ於テ敲釘ト打込釘トヲ交互ニ用ヰ肋骨ト敷トヲ緊著スヘシ

第二十八條　肋骨ハ蒸曲材ヲ用ウルトキハ適當ニ截面ヲ減スルコトヲ得

第二十九條　活魚艙ニ縱通隔壁ヲ設クルトキハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚艙兩端ノ肋骨ノ截面ヲ增加シ縱通隔壁下部ニ縱通材ヲ取付ケ且其ノ部分ノ外板ノ厚ヲ增スカ其ノ他適當ナル補强構造ヲ爲スヘシ

第三十條　梁ノ截面ハ第一號表ニ依ルヘシ

第三十一條　梁ノ心距ハ四呎ヲ超エサル範圍ニ於テ第一號表ニ依ル肋骨心距ノ三倍以內ト爲スコトヲ得但シ心距四呎以內ニ梁ヲ設クルコト能ハサルトキハ肋骨ノ截面又ハ外板ノ厚ヲ增スカ其ノ他適當ナル補强構造ヲ爲スヘシ

第三十二條　梁ハ成ルヘク肋骨ノ上ニ設ケ梁曲材ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

但シ梁受材ヲ設クルトキハ適當ニ梁曲材ノ數ヲ減スルコトヲ得

第三十三條　甲板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ

第三十四條　甲板ノ幅ハ十吋ヲ超ユヘカラス但シ適當ナル補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇、六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第三十六條　外板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ但シ肋骨ノ截面ヲ增シ又ハ心距ヲ減スルトキハ其ノ割合ニ應シ外板ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第三十七條　外板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス但シ適當ニ厚ヲ增ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　外板ハ肋骨毎ニ二箇以上ノ釘ヲ以テ肋骨ニ固著スヘシ但シ肋骨二本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウヘシ

第三十九條　厚一吋四分ノ一ヲ超エサル外板ハ其ノ縱緣ヲ累接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十條　「スクーナー」「ケッチ」「ヨール」「カッター」又ハ「スループ」ノ檣ノ徑ハ長四呎ニ付一吋ト爲スヘシ

第三章　發動機

第四十一條　發動機ノ純馬力ノ測定ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ爲スヘシ

一　發動機ヲ船舶ニ据付クル前檢査官吏ノ適當ト認ムル純馬力測定器ヲ用ヰ計畫回轉數又ハ之ニ近キ回轉數及適當ナル荷重ニ付三回以上運轉セシメ一分間ノ平均回轉數及陸上純馬力ノ平均數ヲ測定スヘシ但シ檢査官吏ニ於テ適當ト認ムル裝置ヲ用ヰタルトキニ限リ發動機ヲ船舶ニ据付ケタル後之ヲ測定スルコトヲ得

二　發動機ヲ船舶ニ据付ケタル後檢査官吏ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ一分間ノ回轉數ヲ測定スヘシ

三　陸上純馬力ノ平均數ヲ第一號ニ依リ測定シタル平均回轉數ニテ除シ其ノ商ニ前號ニ依リ測定シタル回轉數ヲ乘シタルモノヲ以テ純馬力トス

第四十二條　前條ノ測定ヲ受ケ檢査ニ合格シタル發動機ト同一ノ構造及寸法ヲ有シ且ツ同一ノ工場ニ於テ製作シタルモノハ其ノ回轉數及陸上純馬力相同シキモノト看做シ前條第一號ノ測定ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條　發動機又ハ純馬力測定器ノ構造上第四十條ニ依リ陸上純馬力ヲ測定スルコト能ハサルトキハ發動機ヲ船舶ニ据付ケタル後檢査官吏ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ二回以上各氣筩ヨリ取リタル示壓圖ニ依リ算出シタル實馬力ノ平均數ニ適當ナル係數ヲ乘シタルモノヲ以テ純馬力トス

第四十四條　曲拐軸ハ鍛合シタルモノヲ用ウヘカラス

第四十五條　諸軸、接續銲螺釘及辨銲ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル强力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

第四十六條　進力受臺ヲ球軸受ト爲ストキハ硬鋼ノ球及受環ヲ用ウヘシ

第四十七條　燃油槽ヲ甲板上ニ設クルトキハ特ニ堅固ニ之ヲ取付クヘシ

第四章　冷藏機械及副漁具

第四十八條　冷藏機械冷却力製氷量噸數ハ壓搾機ノ吸入管內ノ壓力ヲ大氣壓以上一平方吋ニ付「アンモニア」壓搾式ニ在リテハ十六封度若ハ之ニ近キ數、炭酸壓搾式ニ在リテハ三百封度若ハ之ニ近キ數ニ保チ檢査官吏ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ壓搾機回轉數ヲ測リ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

「アンモニア」壓搾式ニ在リテハ

$$Q=\frac{45}{1,000,000}\times D^2\times S\times N\times Z$$

炭酸壓搾式ニ在リテハ

$$Q=\frac{14}{100,000}\times D^2\times S\times N\times Z$$

Qハ冷却力製氷量噸數

Dハ壓搾機氣筩徑(吋ニテ)

Sハ壓搾機ノ行長(吋ニテ)

Nハ單働壓搾機ニ在リテハ一分間ノ回轉數、複働壓搾機ニ在リテハ一分間ノ回轉數ノ二倍

第四十九條　副漁具ハ船舶ニ据付ケタル後檢査官吏ノ適當ト認ムル方法ヲ以テ運轉シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第五章　業務設備

第五十條　第二數四千未滿ノ木製帆船ニハ左ノ屬具ヲ備フヘシ但シ汽船

及第二數四千以上ノ帆船ノ船體屬具竝蒸汽機關及發動機ノ屬具ハ漁船檢査規程ニ定ムル所ニ依ル

漁業燈　一揃
信號旗　NC二旗
羅針盤　一箇
寒暖計　一箇
兩色燈　一箇
霧中號角又ハ喇叭　一箇
救命具　一箇（總噸數十噸未滿ノ漁船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ）
時計　一箇（同上）
手用測定器　一組（同上）
測深器　一組（同上）
晴雨計　一箇（同上）

第五十一條　鯨獵船ニハ漁艇、銛、手鎗、破裂鎗、投射銃、銛綱、屠割臺、煮油

釜、竈、冷油槽、捲揚器、庖刀、鉤、脂肪切臺及油樽ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十二條　施網漁船ニハ漁艇、網、其ノ附屬具、網置臺、導車、捲揚器、漁艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十三條　曳網漁船ニハ網、其ノ附屬具、捲揚器、曳綱、導車、魚艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十四條　流網漁船又ハ刺網漁船ニハ網、其ノ附屬具、捲揚器、導車、魚艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ但シ流網漁船ニハ捲揚器及導車ヲ設備セサルモ妨ナシ

第五十五條　延繩漁船ニハ延繩、其ノ附屬具、捲揚器、導車、魚艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十六條　一本釣漁船ニハ一本釣、其ノ附屬具、魚留板、魚艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十七條　鰹釣漁船ニハ鰹釣具、其ノ附屬具、活魚艙、魚艙及處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十八條　漁獲物處理運搬船ニハ處理具ノ設備ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ大正三年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前遠洋漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ期間仍從前ノ例ニ依ル

第一號表

第一 材料 數	單材肋骨 肋	單材肋骨 項材	敲釘	肋骨心距	梁
以上 未滿	平方吋	平方吋	吋	吋	平方吋
—8	4	3	2/8	13	8
8—9	6	3	2/8	13	12
9—10	8	4	2/8	13	15
10—11	10	5	2/8	14	18
11—12	15	7	2/8	15	21
12—13	20	10	3/8	16	23
13—	26	13	3/8	17	29

第二號表

第二 材料 數	外板厚	外板ノ敲釘	甲板ノ厚
以上 未滿	吋	吋	吋
—1000	3/4	2/8	1
1000—1400	7/8	2/8	1 1/4
1400—1800	1	2/8	1 1/2
1800—2500	1 1/4	2/8	1 3/4
2500—3500	1 1/2	3/8	2
3500—	1 3/3	3/8	2

○漁獵職員試驗規程

明治四十二年八月四日全部改正
農商務省告示第三百四十一號

第一條　漁獵職員試驗ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條　漁獵職員試驗志願者ニハ別表丙號ニ依リ體格檢査ヲ行フ

前項ノ體格檢査ニ合格シタル者ニハ更ニ學術試驗ヲ行フ但シ場合ニ依リテハ實地試驗ヲモ行フコトアルヘシ

第三條　學術試驗ノ科目ハ左ノ如シ

一　漁獵

二　航海術

三　漁船運用術

四　其ノ他試驗委員ニ於テ必要ト認メタル事項

漁獵ニ關スル試驗ニ付テハ志願者ハ別表甲號ノ種類中一種以上ヲ選擇シ之ヲ試驗願書ニ附記スヘシ

第四條　前條第二項ニ依リ選擇シタル種類ノ合格、不合格ハ各種毎ニ之ヲ定ム

漁獵職員免狀ヲ有スル者ハ既ニ合格シタル以外ノ他種ノ漁獵ニ付試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ志願者及海技免狀ヲ有スル志願者ニ付テハ前條第一項第二號、第三號ノ試驗ヲ省略スルコト得

第五條　學術試驗ハ別表乙號ノ項目ニ付甲種漁獵長試驗及乙種漁獵長試驗ニ在リテハ筆記及口述ノ方法ニ依リ、丙種漁獵長試驗及漁獵手試驗ニ在リテハ口述ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

實地試驗ハ漁船運用、漁獵具ノ構成又ハ使用ニ付之ヲ行フ

第六條　漁獵職員試驗期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　漁獵職員試驗委員ハ其ノ都度農商務大臣之ヲ命ス

第八條　不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ合格ノ效ナキモノトス

別表

（甲號）

帆船鯨獵業　汽船旋網漁業
汽船流網漁業　帆船流網漁業
帆船旋網漁業
汽船「トロール」漁業

帆船「トロール」漁業　汽船延網漁業
汽船一本釣漁業　帆船一本釣漁業
帆船延縄漁業
汽船鰹釣漁業

（乙號）

甲種漁獵長試驗	乙種漁獵長試驗	丙種漁獵長試驗	漁獵手試驗
漁獵 一 漁獲物ノ種類、習性及漁場	一 漁獵船ノ設備	一 漁獵船ノ設備	一 漁獵具ノ構成及用法
二 漁獵船ノ特長及設備	二 漁獵具ノ構成及用法	二 漁獵具ノ構成及用法	二 漁獲物處理法
三 漁獵具竝漁獲物處理具ノ構成及用法	三 漁獲物處理法及處理具ノ用法	三 漁獲物處理法	
四 漁獲物處理法			
航海術 一 緯線航法	一 航海日誌ノ記載	一 羅針儀及海圖用法ノ大意	一 羅針儀用法ノ大意
二 漸長緯度航法	二 航海日誌ノ算法		
三 流潮航法	三 羅針儀及海圖ノ用法		
四 航海日誌算法			
五 太陽ノ子午線高度又ハ子午線ニ近キ高度ニ依ル緯度ノ算法			

漁獵職員試驗規程

六　太陽ノ出沒方位及方位ニ依ル羅針違差ノ算法

七　時辰儀及太陽ノ高度ニ依ル經度及時辰儀違差ノ算法

八　兩時辰儀法ニ依ル經緯度ノ算法

九　潮時算法

十　六分儀ノ矯正及用法

十一　羅針儀ノ違差解明

十二　羅針儀自差ノ測定及算法

十三　海圖ノ用法

漁船運用術

一　檣、帆架及帆ノ取扱

二　測程具及測深具ノ解明竝其ノ用法

三　錨其ノ他屬具ノ取扱

四　汽船ノ常時及荒天運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

五　帆船ノ常時及荒天運用法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

六　航海中船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ際スル應急ノ處置

七　颶風大意及避難法

八　海上衝突豫防法

九　萬國船舶信號法

一　檣、帆架及帆ノ取扱

二　測程具及測深具ノ解明竝其ノ用法

三　錨其ノ他屬具ノ取扱

四　汽船ノ常時及荒天運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

五　帆船ノ常時及荒天運用法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

六　航海中船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ際スル應急ノ處置

七　海上衝突豫防法

八　萬國船舶信號法大意

一　檣及縱帆ノ取扱

二　測程具及測深具ノ用法

三　汽船ノ常時運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

四　帆船ノ常時運用法及漂蹋法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル）

五　海上衝突豫防法ノ大意

一　漁船各部ノ名稱

（丙號）

一　眼ノ現狀　眼瞼下垂、顆類性結膜炎、斜視、角膜及虹彩諸病ノ有無ヲ檢査ス

二　視力　「スネレン」氏試視力表ニ依リ六「メートル」距離ニ於テ兩眼ニ付各別ニ檢査ス

三　辨色　著色毛糸ヲ用ヰ黑、紅、綠、青、黃、紫、白、灰、褐、淡綠、淡紅、淡紫、淡青ノ各色ニ付檢査ス

四　耳ノ現狀　內外聽道ノ疾病殊ニ鼓膜穿孔、耳漏、片耳又ハ兩耳耳聾ノ有無ニ付檢査ス

五　聽覺　懷中時計ノ秒時音ヲ聽キ得ル距離ヲ兩耳ニ付各別檢査ス

六　體格　發育ノ狀態、畸形ノ有無、諸關節ノ運轉ニ付檢査ス

漁獵職員試驗規程

七　疾病　心肺ノ疾患、心悸亢進（著シキモノ）聲音ノ嘶嗄、肋膜炎後ノ障碍、精神異狀、言語障害、吶吃其ノ他著シキ疾病ノ有無ニ付檢査ス

○遠洋漁業練習生規程

（明治三十七年四月（全部改正）農商務省告示第九二號　明治三十八年五月（一部改正）農商務省告示第一二九號　明治四十三年七月（一部改正）農商務省告示第三三六號）

第一條　遠洋漁業練習生ハ本科生及簡易科生トシ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ選拔採用ス

一　本科生

水産講習所本科漁撈科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者

二　簡易科生

一　各種水産學校又ハ地方水産講習所ニ於テ漁撈ニ關スル學科ヲ卒業シタル者

二　一年以上航洋船ニ乘組ミ運航ニ從事シタル者又ハ二年以上沖合ノ漁業ニ從事シタル者

第二條　前條ニ依リ採用セラレタル者ハ本科生ニ在リテハ水産講習所遠洋漁業科ニ於テ、簡易科生ニ在リテハ農商務大臣ノ指定セル講習所、學校、試驗場、漁船船員養成所又ハ遠洋漁船ニ於テ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習セシムルモノトス」農商務大臣ニ於テ特ニ外國ニ於テ前項ノ練習ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ本科生ヨリ選拔シテ外國ニ派遣スルコトアルヘシ此場合ニ於ケル練習科目及方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三條　遠洋漁業練習生ノ修業年限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外本科生ハ三年、簡易科生ハ一年トス

第四條　遠洋漁業練習生採用ノ員數、時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條　遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ履歷書及醫師ノ體格檢査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條　遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以內ニ第二號書式ニ依ル證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

第八條　遠洋漁業練習生ニハ其ノ修業年限相當ノ月手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

外國ニ派遣ヲ命シ又ハ外國ニ於テ旅行ヲ要スル調査ヲ命シタルトキハ前項ノ外別ニ旅行手當金ヲ支給スルコトアルヘシ

第九條　遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ考査シ修業證書ヲ下付ス

第十條　農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年　月　日

族籍、住所、職業、誰子弟
本人　姓　名　印
生年月日

族籍、住所、職業
保證人　姓　名　印

農商務大臣爵氏名殿

第二號書式

○印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令堅ク遵守可致ハ勿論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證人ニ於テ速ニ償還可致候也

年　月　日

族籍、住所、職業、誰子弟
本人　姓　名　印

族籍、住所、職業　保證人　姓　名　印

農商務大臣爵氏名殿

○漁船檢査規程

明治四十二年十月七日遞信省令第四十二號
明治四十三年六月遞信省令第七十號(改正)

第一編　總則

第一條　漁船ノ檢査ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條　檢査官吏漁船ノ特別檢査ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一　第一級漁船
二　第二級漁船
三　第三級漁船
四　第四級漁船

船舶檢査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ資格ハ定期檢査ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三條　船體要部カ本規程ニ合格スル漁船ニ於テハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

第一級漁船	汽船	上甲板下噸數最強速力	百噸以上	八節以上
	帆船	上甲板下噸數	三十噸以上	
第二級漁船	汽船	上甲板下噸數最強速力	十五噸以上	五節以上
	帆船	上甲板下噸數	無制限	
第三級漁船	汽船	上甲板下噸數最強速力	同	
第四級漁船	帆船	上甲板下噸數	同	

船體要部ノ或部分カ本規程ニ合格セサル漁船ニ於テハ檢査官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ檢査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

第四條　檢査官吏漁船ノ特別檢査ヲ執行シタルトキハ左ノ標準ニ依リ船體又ハ機關ノ特別檢査ノ期間ヲ定ムヘシ

船體及ヒ機關(發動機ヲ除ク)

製造後十年未滿ノモノ　五年
製造後十年以上十八年未滿ノモノ　四年
製造後十八年以上ノモノ　三年
製造中檢査ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關ハ年齡十五年未滿ノモノニ限リ各特別檢査ノ期間ヲ一年ツツ延長スルコトヲ得

第五條　第三條ニ掲クル船體要部トハ外板、甲板、肋骨、梁及ヒ以上各部ノ固著力ヲ謂フ

第六條　漁船ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級漁船　遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路
第二級漁船　近海航路、沿海航路、平水航路
第三級漁船　沿海航路、平水航路
第四級漁船　平水航路
第三級漁船ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ受クルトキハ季節ヲ限リ沿海航路外ノ漁場ニ航行スルコトヲ得

第七條　檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ總噸數五十噸又ハ積石數五百石未滿ノ漁船及ヒ沿海航路ノ漁業帆船ハ据船ノ上又總噸數二十噸未滿及ヒ平水航路ノ漁船ハ碇泊ノ儘特別檢査ヲ執行スルコトヲ得

第八條　檢査官吏ハ漁船ノ大小、年齡及ヒ現狀ニ依リ檢査準備ヲ變更若ハ增減セシムルコトヲ得

第九條　漁船ノ檢査ニ關シ本規程ニ規定ナキモノニ付テハ船舶檢査規程、發動機船檢査規程ヲ適用ス

第十條　本規程及ヒ前條ニ掲クル規程ニ規定ナキモノニ付テハ漁業ノ種類ニ依リ航行ノ適否ヲ目的トシ船體、機關、屬具、船員、常用室及ヒ船員ニ關スル設備ヲ檢査スヘシ

第二編　船體部

第一章　船體

第十一條　甲板下噸數二百噸以上ノ鐵製汽船及ヒ上甲板下噸數五百噸以上ノ木製汽船ニ於テハ機關室ヨリ船尾車軸管シ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但船尾ニ機關室ヲ有スル漁船ニシテ檢査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルモノト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁及ヒ船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ鉛板、鐵板若ハ亞鉛板ヲ張リ又其他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スヘシ

第十三條　上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第二級漁船ニ於テハ六吋以上、第一級漁船ニ於テハ九吋以上ト爲スヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高ヲ減シ若ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十四條　上甲板ニ設クル汽機室及ヒ汽罐室口ニハ甲板上面ヨリ第二級漁船ニ於テハ一呎半以上、第一級漁船ニ於テハ二呎以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取付ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

第十五條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ樣覆布及ヒ適當ノ締具ヲ備フヘシ但檢査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及ヒ

覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但檢査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二章　木製漁船

第十六條　第二數四千未滿ノ漁船ニ於テハ船體ノ構造及ヒ寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ强力ヲ有セサル場合ト雖モ檢査官吏カ用途ニ差支ナシト認ムルトキハ第二級漁船ノ資格ヲ與フルコトヲ得

第十七條　漁船ノ內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ寸法ト等ク爲スコトヲ得

第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ノ汽機及汽罐ノ下部ニ於ケル內龍骨ニハ堅材ヲ用ヰサルモ妨ナシ

第十八條　漁船ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第十九條　船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニシテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スヘシ此ノ場合ニ於テハ內龍骨及ヒ側內厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十條　活魚艙ヲ有スル漁船ニシテ縱通隔壁ヲ設クルトキハ該隔壁ノ下部ニ縱通材ヲ取附ケ之ヲ活魚艙ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚艙兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ增シ且該部外板ノ厚ヲ增ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及ヒ外板ノ幅ヲ增加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且內龍骨、側內厚板、內張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條　蒸曲肋骨ト組合肋骨トヲ混用スル漁船ニ於テハ內龍骨、側內龍骨、側內厚板、彎曲部縱通材、梁受板等ヲ貫通スル固著敲釘ハ組合肋骨間ノ距離適當ナルトキハ組合肋骨ノミヲ貫通セシムルモ妨ナシ

第二十二條　第二數四千六百未滿ニシテ幅深ノ二倍二分ノ一ヲ超エサル漁船ニ於テハ側內厚板ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第二十三條　彎曲部縱通材ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上トスコトヲ得

第二十四條　梁壓材ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ノ五分ノ四以上トスシ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二十五條　第二數五千未滿ノ漁船ニ於テハ梁受板、梁壓材、船鍔、彎曲部縱通材及ヒ側內厚板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上トスシ適當ノ固著釘ヲ以テ固著スヘシ

第二十六條　第二數一萬未滿ノ漁船ニ於テハ梁壓材ヲ以テ船鍔ヲ兼用スルコトヲ得

第二十七條　梁ノ寸法ハ乙材ヲ用ヰタルトキハ木船檢査規程第四號表ニ據ルヘシ

汽船ノ甲板梁ノ心距ハ木船檢査規程ニ定ムル肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一トスコトヲ得但四呎ヲ超過スヘカラス

甲板梁ノ心距本規程ニ定ムル心距ヨリ小ナルトキハ心距ノ割合ニ應シ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第二十八條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ノ和每一呎半ニ付一平方吋ノ割合トスヘシ

第二十九條　深五呎未滿ノ漁船ニ於テハ船首肘材ノ數ハ一箇トスシ船尾肘材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十條　第二數四千四百未滿ノ漁船ニ於テハ汽機室口、汽罐室口、長五呎以上ノ艙口兩端梁及ヒ檣ノ前後ノ梁ノ外梁曲材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條　第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ニ用ウル敲釘ハ外板迄貫通セシムルヲ要セス

第三十二條　第二數四千未滿ノ漁船ニ於テハ內張板ヲ設クルコトヲ要セス

又第二數八千五百未滿ノ漁船ニ於テ外板ノ厚ヲ增シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ增ストキハ內張板ヲ設クルコトヲ要セス

第三十三條　第二數二萬五千未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セス

第三十四條　長深ノ八倍ヲ超ユルカ又長幅ノ五倍ヲ超ユル漁船ニ於テハ梁壓材及ヒ舷側厚板ハ十分ノ一以上內龍骨ハ五分ノ一以上過當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面ヲ增スカ若ハ適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

第三十五條　低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ上甲板ノ梁壓材並ニ梁受材又ハ梁受板ハ第二數八千八百未滿ナルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上第

二數四千二百未滿ナルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相累ヌヘシ

第三十六條　漁船ノ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張ルヲ要セス且第二數八千五百未滿ノ漁船ニ於テハ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ半梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ數ヲ減スルコトヲ得

第三十七條　長十呎未滿ノ機關室口ニハ木船檢査規程第十五章第八條ニ規定スル溝造ヲ爲ササルモ妨ナシ

第三十八條　彎曲部縱通材ノ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スルコトヲ得

第三十九條　梁受材又ハ梁受板ノ幅七吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ敲釘一箇ヲ以テ固著スルコトヲ得

第四十條　內部腰板及ヒ各層梁ノ副梁受板ノ固著敲釘ハ外板迄貫通セサルモ妨ナシ

第四十一條　第二數五千未滿ノ漁船ニ於テハ船鍔ト舷側厚板トノ固著ニ打込釘ノミヲ用ウルコトヲ得

第四十二條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ五箇迄減スルコトヲ得

第四十三條　外板ハ其ノ幅八吋半未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋半以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋半以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル漁船及ヒ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウル漁船ニ於テハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

第四十四條　漁船ノ舵心材ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スルコトヲ得

第四十五條　第二數五千未滿ノ漁船ニ於テハ船底包板ハ最大喫水線上六吋ノ所迄張詰ムルモ妨ナシ

第四十六條　漁船ノ「ジッブーム」「フライング、ジッブーム」「ブーム」ノ徑ハ長九呎ニ付二吋「スクーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長五呎ニ付一吋ト爲スコトヲ得

第三章　鐵製漁船

第四十七條　第二級漁船ニシテ漁業上輕快ナル動作ヲ要スル漁船ニ於テハ第二數六千未滿ノモノニ限リ檢査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルト認ムルトキハ左ノ規定ニ從ヒ各部ノ寸法ヲ輕減スルコトヲ得

一　正肋材及ヒ副肋材ノ横邊ノ幅ヲ各二分ノ一吋減少シ且肋骨ノ心距ヲ二十四吋迄ニ爲スコト

二　船底ノ形狀鋭尖ナル漁船ニ於テ肋板ノ高又ハ厚ヲ增加スルトキハ二箇ノ内龍骨用山形材ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成スルコト

三　梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シク又梁上側梁、梁上帶板、梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ヲ鐵鋼船檢査規程ニ定ムル寸法ノ四分ノ一以内輕減スルコト

四　舵心材及ヒ舵針ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スルコト

第四章　屬具

第四十八條　近海航路以上ノ帆船ニハ左ノ豫備帆ヲ備フヘシ

横帆ヲ備ヘサル船（スクーナー、カッター、ケッチ、スループ）
- フォールステースル　一箇
- フォースル　一箇
- フォールステースル　一箇

一ラッガー　フォースル　一箇
横帆ヲ備フル船　（フォースル又ハメインスル　一箇
フォースルテースル　一箇
トップスル　一箇）

第四十九條　總噸數三十噸以上若クハ積石數三百石以上ニシテ沿海航路以上ノ漁船ニハ其ノ噸數及ヒ業務ノ種類ニ應シ左ノ規定ニ從ヒ第一號表ニ據リ漁艇ヲ備フヘシ此ノ場合ニ於テハ船舶檢査規程ニ定ムル端艇ヲ備フルコトヲ要セス

一　漁艇ニハ船首其ノ他見易キ場所ニ其ノ容積、船名及ヒ船籍港ヲ表示スヘシ

二　漁艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂、櫂架、放水口ノ栓、塗杓及ヒ鉤竿各一箇以上ヲ備フヘシ

三　漁艇ニハ適當ナル揚卸裝置ヲ備フヘシ但容積百立方呎未滿ノ漁艇ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

第五十條　屬具ハ第二號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第五章　船員常用室

第五十一條　近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル場所ニ設クルコトヲ得

第五十二條　近海航路以上ノ鰹釣漁船ニ於テハ船員總數ノ三分ノ一カ必要ノ場合ニ於テ休息シ得ヘキ船室ヲ甲板下ニ有スルトキハ別ニ船員常用室ヲ設ケサルモ妨ナシ

第五十三條　近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ニハ適當ノ通風管ヲ設ケ其ノ截面ハ船員常用室ノ定員一人ニ付二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十四條　近海航路以上ノ漁船ノ船員定員ヲ算出スルニハ船員室ノ容積及ヒ面積ヲ漁船ノ航路定限ニ應シ船舶檢査法施行細則附錄旅客定員算出表ニ規定スル三等旅客定員一人分最小容積及ヒ面積ヲ以テ除去シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ小數ヲ以テ該室ノ船員定員ト爲スヘシ

第一章　汽機、汽罐及ヒ發動機

第五十五條　船舶檢査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　汽機ノ汽筩、冷汽器、喞筒、船尾管等ノ仕上ヲ了リタルトキ及ヒ諸軸諸銲ノ粗削ヲ爲シタルトキ

二　汽罐各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ

三　發動機ノ氣筩、吸鍔、諸軸、諸銲、諸瓣及ヒ推進器、逆轉機又ハ推進器轉翅機ノ仕上ヲ了リタルトキ

四　瓦斯發生爐及ヒ瓦斯洗滌器ノ組立ヲ了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　其ノ他檢査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第五十六條　汽筩ハ之ヲ新製シタルトキ、大修繕ヲ行ヒタルトキ又ハ其ノ現狀ニ依リ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶檢査規程第百一條ニ定ムル水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第五十七條　機關檢査規程第三章第一條乃至第十二條、第十六條、第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ之ヲ漁船ノ機關ニ適用セス

第二章　喞筒、瓣、嘴子、管及ヒ屬具等

第五十八條　機關室ニハ正給水喞筒及ヒ正淦水喞筒各一箇ヲ備フヘシ

第五十九條　上甲板下ノ噸數百噸未滿ノ近海航路以上ノ漁船ニ於テハ船舶檢査規程第百十五條ノ裝置ヲ備フルヲ要セス

第六十條　屬具ハ第三號表及ヒ第四號表ニ據リ之ヲ備フヘシ但平水航路ノ漁船ニ於テハ汽船ニ在リテハ船舶檢査規程第八號表、發動機船ニ在リテハ發動機船檢査規程別表ニ據ルヘシ

第一號表

漁艇表

總噸數	最少艇數	摘要
三十噸以上五十噸未滿	二	七十立方呎
五十噸以上百噸未滿	一	八十立方呎

一隻ノ最小容積　臘虎、膃肭獸獵船ハ二隻以上ヲ要ス

獵虎、膃肭獸獵船ハ四隻以上、旋網帆船ハ二隻以上ヲ要ス

百噸以上二百噸未滿	一	八十立方呎	鯨獵帆船、旋網帆船及ヒ流網帆船ハ二隻以上、延縄帆船ハ三隻以上、臘虎、腦肭獸獵船ハ五隻以上ヲ要ス
二百噸以上三百噸未滿	二	八十立方呎	一本釣帆船ハ三隻以上、鯨獵帆船及ヒ延縄帆船ハ四隻以上、臘虎、腦肭獸獵船ハ六隻以上ヲ要ス又鯨獵汽船「トロール」漁船、流網汽船、延縄汽船、漁獲物處理運搬船ハ一隻ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニハ漁艇ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ
三百噸以上四百噸未滿	二	九十五立方呎	
四百噸以上五百噸未滿	三	百二十五立方呎	
五百噸以上	二	百五十立方呎	

備考　旋網帆船及ヒ鯨獵帆船ニ於テハ各艇ノ容積百五十立方呎以上ナルヲ要ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ積石數十石ヲ總噸數一噸ニ換算シテ本表ヲ適用ス

第二號表

船體部屬具表

名稱＼航路定限	遠洋航路 汽船	遠洋航路 帆船	近海航路 汽船	近海航路 帆船	沿海航路 汽船	沿海航路 帆船	平水航路 汽船	摘要
救命浮環	四	四	二	二	二	二	一	總噸數三十噸又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニ在リテハ一箇ト爲スコトヲ得
救命焰	二	一	二		一	一	一	
檣燈	一	一	一	一	一	一	一	
舷燈	一對	一對	一對	一對	一對	一對	一對	總噸數四十噸未滿ノ汽船ニ在リテハ兩色燈ヲ以テ代用スルコトヲ得
碇泊燈	一	一	一	一	一	一	一	船ノ長百五十尺以上ナルトキハ二箇ヲ備フヘシ
漁業燈	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃	
紅燈	二	二	二	二	三	三	一	總噸數四十噸未滿ノ汽船ハ之ヲ備フルヲ要セス
黑球	二	二	二	二	二	二	一	總噸數四十噸未滿ノ汽船ハ之ヲ備フルヲ要セス
火箭若ハ星火ヲ發スル榴彈	六	六	二	二	二	二	一	
霧中號角	一	一	一	一	一	一	一	
號鐘	一	一	一	一	一	一	一	
國旗	二	二	一	一	一	一	一	
信號旗	一組	一組	一組	二NC靜	二NC旗	二NC旗	一	總噸數百五十噸未滿及ヒ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未滿ノ汽船ニハNC旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但NC旗ノミヲ備フル漁船ト難モ信號符字ノ點附アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フヘシ

信號書	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	總噸數百五十噸未滿及ヒ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
船名錄	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	總噸數百五十噸未滿及ヒ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
時計	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
羅針盤	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二箇ヲ有スルモノハ一箇ハ天象岬角ヲ測リ得ヘキ器具ヲ備フルヲ要ス又近海航路ノ帆船ニ在リテハ漁場ニ依リ日本形磁石ヲ用ウルモ妨ナシ
時辰儀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
六分儀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
手用測程具	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
砂漏計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
手用測鉛	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
晴雨計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニ在リテハ漁場ニ依リ檢査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
寒暖計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	海水ヲ測ルニ適當ナルヲ要ス
雙眼鏡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

航海暦	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
消防用手桶	四	四	四	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
斧	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

第三號表

機關屬具表

名稱	員數		摘要
	遠洋航路	近海航路以下	
吸鍔彈環	各吸鍔二付 一組	——	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得又機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
吸鍔發條	各吸鍔二付 一組	同	上 同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルモ妨ナシ
吸鍔螺釘及ヒ母螺	總數ノ四分ノ一	同	上 機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
滑瓣銲	各滑瓣二付 一箇宛	——	——
接續銲上下ノ螺釘	上下各 一組	同	上 機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
主軸受螺釘及ヒ母螺	一 組	——	——
接軸鍔螺釘及ヒ母螺	一 組	同	上

冷汽管	總數ノ三十分ノ一			但十本ヲ最少ノ限度トス
冷汽管塡縮	總數ノ二十分ノ一			但三十箇ヲ最少ノ限度トス木製ナルトキハ塡縮器ヲ添フ
排氣喞筒瓣	一	組	同	上	單瓣裝置ナルトキ
	半	組	同	上	多瓣裝置ナルトキ
循環喞筒瓣	一	組	同	上	單瓣裝置ナルトキ
	半	組	同	上	多瓣裝置ナルトキ
給水喞筒瓣及ヒ座	二	組	同	上	護謨製ナルトキ
	一	組	同	上	金屬製ナルトキ
制限瓣及ヒ座	一	組	同	上	
淦水喞筒瓣及ヒ座	二	組	同	上	護謨製ナルトキ
	一	組	同	上	金屬製ナルトキ
安全瓣發條	一	箇	同	上	
火床架	總數ノ五分ノ一		同	上	但四箇ヲ最少ノ限度トス
驗水器硝子	各鑵ニ付四箇		同	上	

管擴器	一	箇	同	上	
管塞器	八	箇	同	上	但內半數ハ汽鑵前面ニ於テ直ニ使用シ得ヘキモノナルヲ要ス
滑車及ヒ綱	一	組			機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
螺旋切道具	一	組			同
錐孔器	一	箇	同	上	同
据附萬力	一	箇	同	上	同
鐵板	若	干			
鐵棒	若	干			
螺釘及ヒ母螺	若	干	同	上	
機關室用小道具	一	揃	同	上	
驗鹽器	一	箇	同	上	
寒暖計	一	箇	同	上	

備考　汽機二臺以上ヲ備フルモノニ在リテハ表中ノ吸鍔彈環乃至冷水喞筒瓣及ヒ座ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

發動機屬具表

名稱／種類			
吸鍔彈環	氣筩二箇毎ニ一組	同上	同上
吸入瓣	氣筩二箇毎ニ一箇	同上	同上
排出瓣	氣筩一箇毎ニ一箇	同上	同上
發條	各種一揃	同上	同上
給油喞筒瓣	給油喞筒一箇毎ニ一組	同上	同上
冷筩喞筒瓣	氣筩二箇毎ニ一組	同上	同上
點火器	——	氣筩一箇毎ニ二箇	氣筩一箇毎ニ一箇
電氣點火器	氣筩二箇毎ニ一箇	—	—
發電子	一箇	—	—
電池	四箇	—	—
起動用燈	氣筩一箇毎ニ一箇	氣筩一箇毎ニ二箇	氣筩一箇毎ニ二箇
同火口	燈一箇毎ニ一箇	同上	同上
接續銲上下螺釘	一組	同上	同上
螺釘及ヒ母螺	各種若干	同上	同上
機關室用小道具	一揃	同上	同上

備考　發電子ハ發電機ヲ以テ點火スル發動機ニ限リ之ヲ備フヘシ
起動用燈ハ燃點火式發動機ニ在リテハ本表ニ掲クルモノノ外常用トシテ氣筩一箇毎ニ一箇ヲ備フヘシ

○木船檢査規定

明治三十三年十二月遞信省令第八十九號
明治四十三年六月省令第六十七號（改正）

第一章　總則

第一條　此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ正甲板上ニハ船員、旅客若ハ輕量ノ貨物ヲ搭載シ其ノ上甲板上ニハ船首樓、船尾樓又ハ全面積ノ十

分ノ一以上ノ甲板室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板ト謂フ

第二條　此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ」

深ト稱スルハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第三條　此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スル重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ二分ノ一ノ所迄ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ長ト幅ト深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ又甲板船ニ於テハ長ト幅ト輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所

迄ノ深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ

前二項ノ長、幅、深及ヒ高ハ呎ヲ以テ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第四條　此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ八倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第五條　肋骨ノ寸法及ヒ心距ハ第一數ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾材、舵柱、內龍骨、側內厚板、船尾横翼材、梁受板、副梁受板、梁曲材、彎曲部縱通材、船鍔、外板、內張板、木甲板、舵心材及ヒ舵針等ノ寸法及ヒ舵針ノ數ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル各層梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六條　第一級船及ヒ第二級船ノ船體ノ各部ノ寸法ハ別表ニ據ルヘシ

第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ檢査官吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第七條　此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ檢査官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第二章　材料

第一條　木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セスシテ充分乾燥シタルモノナルヲ要ス

第二條　曲材ハ總テ天然ノ屈曲材ニシテ木目ノ貫通セルモノナルヲ要ス

第三條　木材ヲ蒸曲ケシテ用ウルトキハ蒸曲ケタル後裂疵ヲ生セサルモノナルヲ要ス

第四條　此ノ規程ニ規定スル副內龍骨、側內龍骨、梁受材、梁壓材、副梁壓材、船首肘材、船尾肘材、梁曲材、內部腰板、縱梁、檣孔板及ヒ艙口緣材等ノ寸法ハ第一號表甲欄ニ掲クル材料ヲ用ヰタルトキノ寸法トス

第五條　「チーク」ヲ第一號表甲欄ニ掲クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ十二以下又乙欄ニ掲クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ十二以下其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得

「オレゴンパイン」ハ第一號表乙欄ニ掲クル木材ニ代用スルコトヲ得

第六條　第一號表甲欄ニ掲クル木材ノ代リニ乙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十二以上、丙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十二以上又丁欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十二以上其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ增スルコトヲ要ス

第七條　第一號表乙欄ニ掲クル木材ノ代リニ甲欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ百分ノ十二以下減スルコトヲ得

第八條　第一號表乙欄ニ掲クル木材ノ代リニ丙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十五以上、丁欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十五以上其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ增スコトヲ要ス

第九條　此ノ規程ニ規程スル鐵材ノ代リニ鋼材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ百分ノ二十以下減スルコトヲ得

第三章　龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材及ヒ船尾管胴材

第一條　龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條　龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外

三十五呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深ハ第三號表ニ掲クル龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヲ要ス

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿チ尙溝ノ上部ニハ適當ナル緣ヲ殘シ置クヘシ

第三條　龍骨ノ嵌接ハ鉤形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但木栓ヲ以テ特ニ固著スルトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及ヒ龍骨翼板ノ嵌接ト五呎以上相避距シ且檣根及ヒ艙ト適當ニ避距スヘシ

嵌接ニハ其ノ兩端ニ二箇ツヽ其ノ中間ニ十二距ノ心距ニ敲釘ヲ用ヰテ緊著スヘシ

嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第四條　船首ノ寸法ハ最大喫水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ掲クルモノヽ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ニテ作ルヘシ但第二數五萬以上ノ船舶ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ嵌接ノ長ヲ用材ノ深ノ三倍二分ノ一以上ト爲シ且適當ナル副船首材ヲ設クヘシ

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ四倍以上ト爲シ其ノ構造ハ總テ本章第三條ニ規程セル龍骨ノ嵌接ニ等クスヘシ

船首材ノ下部屈曲セスシテ龍骨ニ衝接スルトキハ筍ヲ作出シテ相嵌込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附シ且根曲材ヲ以テ固著スヘシ又接合ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ除ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第五條　雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ前條第四項ニ依ルヘシ

雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ掲クルモノヽ四分ノ三ト爲スコ

トヲ得

第六條　單螺旋汽船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ正甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ本章第四條第四項ニ依ルヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第三號表ニ掲クル寸法ノ五分ノ三ヨリ小ナルヘカラス單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ第三號表ニ掲クル船尾材ニ等シク舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ其ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

單螺旋汽船ノ舵柱ハ筩ヲ作出シテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍骨及ヒ舵柱ニ跨ル黃銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ニ爲スヘシ但龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ特ニ堅牢ナル黃銅製金具ヲ以テ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材及ヒ舵材ハ其ノ上部ニ於テ兩面ニ第三號表ニ掲クル船尾材ノ截面ノ二分ノ一ヨリ少カラサル船尾縱翼材ヲ以テ相挾ミ其ノ空隙ニハ塡材ヲ挿入シテ緊著スヘシ

第七條　船首材及ヒ船尾材ニハ外板ノ端末ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツヘシ

第八條　船ノ首尾ニ於ケル力材ノ高ハ斜肋骨ノ下部ヲ取附クルニ充分ナラシメ其ノ厚ハ龍骨ノ厚ニ等クスヘシ

第九條　船尾管ノ通スル部分ニ於ケル胴材ハ堅材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

第四章　肋骨及ヒ船尾横翼材

第一條　肋骨ハ總テ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ但肋材ノ深ハ其ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第二條　長短肢助根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ總長ハ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且肋根材ハ船ノ幅ノ七分ノ一以上相累接セシムヘシ

第三條　肋根材及ヒ半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長ヲ船ノ幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ且半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心ヲ交互ニ二吋以上左右ニ隔離スルヲ要ス

第四條　第一數二十七未滿ノ船舶ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一數二十七以上ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ

肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓等ヲ以テ相嵌合スヘシ但第一數二十三未滿ノ船舶ニ於テハ木栓等ヲ省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ一箇以上ノ敲釘若ハ木釘ヲ以テ緊著シ且衝接ノ避距大ナルトキハ衝接ノ中間ニ於テ木釘若ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第五條　嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ又衝接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ用材ノ截面ニ等キ截面ヲ有シ其ノ總長用材ノ深ノ四倍以上ヲ有スル添材ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六條　蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ寸法ハ第二號表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減スヘシ

第七條　肋骨ノ心距ハ第二號表ニ據ルヘシ但帆船ニ於テハ其ノ一倍四分ノ一迄增スコトヲ得

第八條　船ノ幅、深ノ三倍以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ肋骨ノ心距ヲ減スルカ若ハ肋骨ノ寸法ヲ增スヘシ

第九條　船首肋材及ヒ錨鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作リ其ノ厚ハ肋骨ノ厚ノ二倍以上ト爲スヘシ

船首材ヨリ錨鎖孔材ノ後部適當ナル距離ノ所迄肋骨ノ間隙ニハ塡材ヲ挿入スヘシ

第十條　船尾肋材ハ其ノ寸法ヲ踵部ニ於テハ肋材ノ頂部ノ截面ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テハ四分ノ三以上ト爲シ船尾縱翼材又ハ船尾橫翼材ニ緊著スヘシ

第十一條　第二數五萬以上ニシテ肋骨柔材ナルトキハ第十三章第三條ニ規定スル斜帶板ヲ取附クヘシ

第十二條　肋骨ノ寸法規定ノ寸法ヨリ小ナルトキ又ハ肋骨ノ心距規定ノ心距ヨリ大ナルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨ニ取附クヘシ

第十三條　船尾横翼材ハ成ルヘク一材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第五章　内龍骨、側内厚板及ヒ彎曲部縦通材

第一條　内龍骨及ヒ側内厚板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條　内龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ内龍骨ニ使用スルトキハ其ノ上面ニ副内龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル内龍骨ノ深ハ第三號表ニ掲クル内龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副内龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第三條　船ノ長百三十呎ヲ超ユルカ若ハ船ノ長九十呎以上ニシテ深ノ七倍以上ナルトキハ適當ノ側内龍骨ヲ附スヘシ

第四條　内龍骨ノ嵌接ハ平面水平嵌接ト爲シ其ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上其ノ端末ニ於ケル内龍骨ノ深ハ用材ニ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

内龍骨ノ嵌接ハ龍骨ノ嵌接トハ五呎以上又汽機及ヒ汽鑵トハ適當ニ避距スヘシ

第五條　檣ハ直接ニ内龍骨ニ嵌込ムヘカラス

第六條　汽機及ヒ汽鑵ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ堅材ヲ以テ構成シ且汽鑵ノ下部ト内龍骨ノ上部トハ十二吋以上隔離スルカ若ハ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第七條　側内厚板ハ肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ設クヘシ

第八條　船底彎曲部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲ノ縦通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ但首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第九條　側内厚板及ヒ彎曲部縦通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第二數八萬以上ノ船舶ニ於ノハ彎曲部縦通材ハ五呎以内ノ距離ニ成ルヘク横ニ其ノ一端ヨリ他端ニ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六章　梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材

船鍔及ヒ内部腰板

第一條　梁受材及ヒ梁壓材ハ各層梁ニ取附ケ其ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ニ等クシ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ第四號表ニ掲クル梁ノ幅

ヨリ大ナラシムヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ梁受材ヲ取附ケサルトキハ梁受板ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第三條　梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、鉛鰐及ヒ内部腰板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘又ハ打込釘ヲ以テ固者スヘシ

前項ニ掲クル各材ノ嵌接ハ適當ニ避距スヘシ

第四條　重甲板梁、正甲板梁及ヒ艙梁ニハ第三號表ニ掲クル寸法ヲ有スル副梁受板ヲ附スヘシ但第二數一萬五千末滿ノ船舶ノ重甲板梁ニハ之ヲ附スルヲ要セス

第五條　第二數三萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間重甲板梁ニ副梁壓材ヲ設クヘシ

第二數五萬以上ナルトキハ前項ノ副梁壓材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ」

第二數九萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間輕甲板梁及ヒ正甲板梁若ハ艙梁ニモ副梁壓材ヲ設クヘシ

第六條　副梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ掲クル梁ノ幅以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ掲クル木甲板ノ厚ニ等クスヘシ

第七條　船鰐ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ

船鰐ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鰐ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

鉛鰐ノ幅ハ外板及ヒ梁壓材ニ固著スルニ充分ナル幅ト爲スコトヲ得

第八條　内部腰板ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ梁壓材上ニ設クヘシ

内部腰板ノ寸法ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ副梁受板ニ等クスヘシ

第七章　梁及ヒ梁ノ配置

第一條　甲板梁及ヒ艙梁ノ寸法ハ第四號表ニ據リ船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但輕甲板梁ハ其ノ截面ヲ表中ノ截面ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二條　各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ設クヘシ

第三條　梁矢ハ上甲板梁ニ於テハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一吋以上、正甲板梁ニ於テハ八分ノ一吋以上ノ割合ト爲スヘシ

第四條　梁ハ漸次其ノ深ヲ減少シテ梁端ニ於テ中央ノ深ノ十分ノ九ト爲ス

コトヲ得

第五條　船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三ヨリ短キ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ掲クルモノヽ四分ノ三迄減スルコトヲ得

第六條　艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ掲クルモノヽ一倍八分ノ一ト爲スヘシ

第七條　梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ設ケ肋材ニ密接セシメ梁受材上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムヘシ

第八條　甲板梁ノ心距ハ汽船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一以下、帆船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍以下ト爲スヘシ但四呎ヲ超過スヘカラス

第九條　檣孔及ヒ艙口ニ設クル縦梁ノ截面ハ甲板梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲スヘシ艙口ノ兩側ニ於ケル半梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ上甲板梁一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十一條　深十六呎以上十九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シ上甲板

梁一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十二條　深十九呎以上二十一呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁一本置ニ二本續キテ艙梁ヲ設クヘシ

第十三條　深二十一呎以上二十五呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁毎ニ正甲板梁又ハ艙梁ヲ設クヘシ

第十四條　龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深九呎以上ナルトキハ帆船ニ於テハ檣孔梁及ヒ艙口兩端ノ梁又汽船ニ於テハ艙口及ヒ機關室口ノ兩端ノ梁ニハ肋根材ニ二箇ノ敲釘ヲ打ツニ足ルノ長ヲ有スル鐵製ノ特設梁曲材ヲ附スヘシ

第十五條　艙口、汽機室又ハ汽罐室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

揚錨機、斜檣等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ增スヘシ

第八章　梁柱

第一條　梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁毎ニ梁柱ヲ取附クヘシ但梁ヲ支フル縦梁アルトキハ梁一本置ニ之ヲ取附クルモ妨ナ

シ上層梁ニ梁柱ヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第二條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深トノ和毎一呎ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

鐵製中實梁柱ノ徑ハ船ノ幅ト深トノ和ヨリ二呎ヲ減シタル差毎一呎ニ付十六分ノ一吋ノ割合ト爲スヘシ

甲板間ノ梁柱ノ截面ハ前二項ノ規定ニ依リ算出シタル截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

鐵製中空梁柱ヲ用ウルトキハ其ノ截面ハ中實梁柱ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルヲ要ス

本章第一條第一項ノ規定ニ依リ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ截面ハ梁毎ニ取附クルモノヽ一倍二分ノ一ト爲スヘシ

第三條　幅二十五呎未滿ノ船舶ニ於テ梁ノ截面ヲ第四號表ニ掲クルモノヽ一倍四分ノ一以上ト爲シ且其ノ兩端ニ竪梁曲材ヲ附スルトキハ梁柱ヲ設ケサルモ妨ナシ

第四條　甲板室、斜檣、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材

第一條　艙內ニ於ケル肘材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又各層梁受材ノ端末ニハ肘材ヲ設クヘシ

第二條　深九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材二箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

第三條　深九呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材三箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

第四條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材四箇、船尾肘材二箇ヲ設クヘシ

第五條　深十六呎以上ノ船舶ニ於テハ三呎以內ノ距離ニ船首肘材ヲ設ケ且二箇以上ノ船尾肘材ヲ設クヘシ

第六條　肘材ノ腕ノ長ハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ト爲シ下部ニ用ウルモノハ其ノ部分ニ於ケル內板ニ四十五度ノ角度ヲ以テ交叉セシムヘシ但添材ヲ附スルトキハ腕ノ長ハ船ノ幅ノ八分ノ一迄減スルコトヲ得

第七條　木製肘材ノ截面ハ咽喉部ニ於テ第四號表ニ掲クル甲板梁ノ截面ノ

四分ノ三ト爲シ腕端ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

第八條　鐵製肘材ヲ用ウルトキハ幅ハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ幅ニ二分ノ一吋ヲ加ヘタルモノ、厚ハ咽喉部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ幅ニ等ク、腕ノ各部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ厚ニ四分ノ一吋ヲ加ヘタルモノナルヲ要ス

第十章　梁曲材

第一條　鐵製竪梁曲材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ

第二條　木製竪梁曲材ノ腕ノ長ハ第五號表ニ掲クル鐵製竪梁曲材ニ等クシ其ノ幅ハ之ヲ取附クル梁ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚ハ咽喉部ニ於テハ幅ノ一倍二分ノ一、腕端ニ於テハ幅ニ等クスヘシ

第三條　第二數八千四百未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁二本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第四條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ汽船ニ於テハ交互ニ甲板梁一本置トニ本置トニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第五條　第二數一萬七千以上二萬五千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第六條　第二數二萬五千以上三萬三千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第七條　第二數三萬三千以上ノ汽船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、六萬七千以上十萬未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ又十萬以上ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第八條　第二數八千四百未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第九條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第十條　第二數一萬七千以上十二萬未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數二萬五千以上四萬二千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ、六萬七千以上十二萬未滿ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材

ヲ取附クヘシ

第二數十二萬以上ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十一條　二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルモ妨ナシ

第十二條　艙梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十三條　第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ艙梁毎ニ取附ケ其ノ梁腕ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ梁腕ノ長ニ等キ長ヲ有シ側腕ハ肋根材ニ二箇ノ敲釘ヲ以テ固著スルニ足ルヘキ長ヲ有スルモノナルヲ要ス

特設梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ニ準スヘシ

第十四條　前條ノ特設梁曲材ヲ用ヰサルトキハ梁ト梁トノ間ニ於ケル肋骨ニ鐵帶ヲ取附ケ上部ハ梁受材ニ緊著スヘシ

鐵帶ノ長及ヒ幅ハ特設梁曲材ノ側腕ニ等クシ厚ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ咽喉釘部ニ於ケル厚ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第十五條　木製又ハ鐵製ノ梁曲材ヲ用ウル代リニ鐵製肘板及ヒ山形材ヲ用

ウルトキハ其ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ但梁腕及ヒ側腕ニ於ケル山形材ノ長ハ梁曲材ニ等クスヘシ

第十六條　肋骨間ニ於テ竪梁曲材ヲ固著スル時ハ該部ニ塡材ヲ挿入スヘシ

第十七條　横梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

第十一章　外板及ヒ内張板

第一條　外板及ヒ内張板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リテ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第二條　外板ノ横縁ノ避距ハ上下ニ鄰接スルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、外板一條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上、二條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ

外板ノ横縁ハ三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一ノ肋骨上ニ置クヘカラス

前二項ノ規定ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セサルモ妨ナシ

第三條　外板及ヒ内張板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外十八

呎以上ナルヲ要ス

第四條　外板及ヒ内張板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス

第五條　兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横縁ノ避距ハ肋骨ノ心距ノ三倍以上ト爲スヘシ

龍骨翼板ノ横縁ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第六條　外部腰板ハ喫水線ノ上下ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ總幅ハ左表ニ據ルヘシ

船ノ長ト深トノ割合	外部腰板ノ總幅ト船ノ深トノ割合
六倍未滿	百分ノ二十五
六倍以上八倍未滿	百分ノ三十
八倍以上十倍未滿	百分ノ三十五
十倍以上十二倍未滿	百分ノ四十

第七條　舷側厚板ノ横縁ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第十二章　甲板

第一條　重甲板船ノ重甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

輕甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ輕甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

第二條　上甲板及ヒ正甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

第三條　木甲板ノ幅ハ十吋ヨリ大ナルヘカラス又其ノ端末ニ於ケル幅ハ塡絮ヲ施スニ充分ナルヲ要ス

第四條　鄰接スル木甲板ノ横縁ノ避距ハ梁ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又木甲板三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一梁上ニ横縁ヲ置クヘカラス

第五條　木甲板ノ長ハ船ノ首尾兩端及ヒ艙口ノ間ヲ除クノ外二十呎以上ト爲スヘシ

第六條　揚錨機、揚貨機、繫船器等ノ下部ニ於ケル甲板ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十三章　過當比例ノ船舶

第一條　過當比例ノ船舶トハ長、深ノ八倍ヲ超ユルカ又ハ長、幅ノ五倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

第二條　過當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深及ヒ幅トノ割合ニ依リ左表ノ規定ニ從ヒ上部ニ於テ梁壓材及ヒ舷側厚板ノ截面ヲ增シ下部ニ於テハ內龍骨ノ截面ヲ增スカ若ハ副內龍骨又ハ側內龍骨ヲ增設スヘシ

過當比例	梁壓材ノ增加スヘキ截面ト梁壓材ノ截面トノ割合	舷側厚板ノ增加スヘキ截面ト舷側厚板ノ截面トノ割合	兩側ニ增設スヘキ副內龍骨又ハ側內龍骨ノ截面トノ割合	內龍骨ノ增加スヘキ截面ト內龍骨ノ截面トノ割合
長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿	六分ノ一	六分ノ一	四分ノ一	四分ノ一
長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿	四分ノ一	四分ノ一	三分ノ一	三分ノ一
長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿	三分ノ一	三分ノ一	二分ノ一	二分ノ一

第三條　第二數二萬五千以上ノ過當比例ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ左表ニ掲クル鐵製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クヘシ

第二數	斜帶板ノ寸法 幅	厚
二萬五千以上四萬二千未滿	三	十六分ノ六吋
四萬二千以上五萬八千未滿	三	十六分ノ七吋
五萬八千以上七萬五千未滿	四	十六分ノ八吋
七萬五千以上十萬未滿	四	十六分ノ十吋
十萬以上十二萬五千未滿	四 半	十六分ノ十一吋
十二萬五千以上十六萬七千未滿	五	十六ノ分十二吋

第四條　斜帶板ハ船鍔ノ下部ヨリ肋根材長肢ノ頭部又ハ半肋根材ノ頭部ト第一肋材ノ頭部トノ中間迄達セシムヘシ

第五條　斜帶板ハ肋骨ニ四十五度ノ角度ニ取附ケ其ノ心距ハ船ノ長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿ナルトキハ八呎以下、又船ノ長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿ナルトキハ七呎以下、又船ノ長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿ナルトキハ六呎以下ト爲スヘシ

第六條　斜帶板ハ船首ニ於テハ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル樣配置シ中央部ニ於テ三本以上相交叉セシムヘシ

第十四章　甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓及ヒ低船尾樓

第一條　輕甲板上ノ甲板室ハ其ノ高七呎ヲ超ユヘカラス又船ノ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ニハ之ヲ設クヘカラス

第二條　船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓、低船尾樓等ノ合長ハ船ノ長ノ五分ノ三ヲ超ユヘカラス

船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ノ各材ノ截面ハ重甲板以下ノ各材ノ截面ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ヲ設クルトキハ重甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鍔ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三條　低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板其ノ他ノ諸材ノ寸法ハ重甲板以下ニ要スルモノニ等クシ又梁、船首肘材及ヒ船尾肘材ノ配置ハ龍骨ノ上面ヨリ低船首樓又ハ低船尾樓ノ甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ第七章及ヒ第九章ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ重甲板ノ梁壓材並ニ梁受材又ハ梁受板ハ肋骨ノ心距ノ五倍以上相累ヌヘシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ於テハ上甲板ノ高ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ舷側厚板ヲ設クヘシ

第十五章　艙口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口

第一條　長十呎以上ノ艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ第十章第十七條ニ規定スル横梁曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ

第二條　上甲板及ヒ正甲板ノ艙口ノ長八呎以上ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ長十呎以上ナルトキハ縱梁ノ兩端ハ第十章第十七條ニ規定スル横梁曲材ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ又其ノ長十五呎以上ナルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三條　上甲板ニ設クル艙口、汽機室口、汽罐室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ縁材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第二級船ニ於テハ九吋以上、第一級船ニ於テハ十二吋以上トシ且堅牢ナル覆蓋ヲ設クヘシ

第四條　帆船ニ於テハ上甲板及ヒ檣ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル檣ノ前後ノ梁間ハ縱梁、塡材及ヒ横曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ第三號表ニ掲ク

ル甲板ノ厚ノ一倍三分ノ一ノ厚ト檣徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル檣孔板ヲ設クヘシ

第五條　汽機室口及ヒ汽罐室口ハ成ルヘク小サク之ヲ造リ其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クヘシ

第六條　上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽罐室口ニハ甲板上面ヨリ第二級船ニ於テハ二呎以上、第一級船ニ於テハ二呎六吋以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

第七條　一層甲板船ノ甲板及ヒ二層甲板船ノ正甲板ニ於ケル汽機室口及ヒ汽罐室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張詰メ且横梁曲材ヲ以テ半梁ノ兩端ヲ固著スヘシ

第八條　機關室口ノ兩端及ヒ中央ニハ第四號表ニ掲クル梁ノ截面ヨリ三分ノ二增シタル截面ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一本及ヒ横梁曲材二本ヲ以テ船側ニ固著スヘシ但汽機室ト汽罐室ト隔離スルトキハ各室ノ兩端ニ特設梁ヲ設クヘシ

特設梁ノ間ニハ堅材ノ縱梁ヲ設ケ横梁曲材ヲ以テ特設梁ニ固著スヘシ

第九條　船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル口ヲ設クルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ戸ハ堅牢ニ作リ適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキハ水密ト爲ルヘキ構造ト爲スヘシ

第十條　載貨門及ヒ載炭門ハ舷側厚板、梁受材、梁受板、副梁受板及ヒ内部腰板ヲ切缺キテ設クヘカラス但特ニ相當ノ補強構造ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六章　固著法及ヒ固著釘

第一條　總テ重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第六號表ニ據ルヘシ但用材ノ寸法第二號表乃至第五號表ニ掲クルモノヨリ大ナルトキハ其ノ部分ニ用ウル固著釘ハ適當ニ釘徑ヲ增スヘシ

敲釘ヲ打込ムヘキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ十六分ノ一吋以上小ナルコトヲ要ス

第二條　敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著スヘシ

第三條　板ヲ肋骨又ハ梁ニ固著スヘキ打込釘ノ長ハ貫通スル板ノ厚ノ二倍以上ト爲シ又其ノ徑ハ其ノ部分ニ用ウル敲釘ノ徑ヨリ十六分ノ二吋減シ

タルモノヨリ少カルヘカラス又角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十分ノ九以上ト爲スヘシ

第四條　木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ之ヲ切開シテ楔止メヲ爲スカ又ハ塡絮ヲ用ヰテ水密ト爲スヘシ

第五條　力材又ハ內龍骨ト船尾材、船尾材又ハ龍骨トヲ貫通スル敲釘ノ心距ハ十八吋以內ト爲スヘシ但內龍骨カ力材ノ上部ニ達スルトキハ敲釘ハ內龍骨ヲ貫通スルヲ要ス

第六條　肋骨ハ打込釘ヲ以テ龍骨ニ固著スヘシ

第七條　龍骨及ヒ內龍骨ハ肋骨每ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第八條　側內龍骨ハ肋骨每ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第九條　側內厚板ハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著シ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第十條　彎曲部縱通材ハ其ノ各材ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著スヘシ但其ノ幅八吋以上ナルトキハ適當ニ敲釘ノ數ヲ增スヘシ

第十一條　上甲板梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨每ニ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ但敲釘ハ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス

正甲板若ハ艙梁ノ梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨一本置ニ敲釘二箇ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

各層梁ノ副梁受板ノ固著法ハ總テ上甲板梁受材若ハ梁受板ニ等クスヘシ

第十二條　梁壓材ハ肋骨每ニ梁壓材、肋骨及ヒ外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但正甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セサルモ妨ナシ

第十三條　副梁壓材ハ梁每ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十四條　船鍔ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚板ニ固著スヘシ

船鍔ハ梁ノ中間ニ於テ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鍔ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鍔ハ舷檣柱每ニ敲釘ヲ以テ固著スヘシ又船鍔ヲ二材合セト爲ストキハ尙舷檣柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十五條　內部腰板ノ固著法ハ上甲板梁受材ニ等クスヘシ

第十六條　梁ハ其ノ兩端ニ於テ船鍔、梁壓材及ヒ梁受材若ハ梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但第二級船ニシテ第二數二萬五千未滿ナルトキハ敲釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第十七條　鐵製ノ船首肘材及ヒ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ、其ノ腕ヲ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十八條　梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ十二吋ヲ超ユヘカラス又各腕ニ於ケル固著釘ノ數ハ咽喉部釘ノ外二箇以上ナルヲ要ス

第十九條　柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ梁曲材及ヒ肘材ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルヲ要ス

第二十條　外板ノ横縁ノ兩側ニ於テハ二箇ノ釘ヲ以テ外板ヲ肋骨ニ固著スヘシ但其ノ一ハ敲釘ナルヲ要ス

横縁ニ鄰接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ外板ヲ固著スルトキハ横縁ノ兩側ニハ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第二十一條　外板ハ其ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋以上十吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

前項ノ固著釘ハ肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ナルヲ要ス

第二十二條　龍骨翼板前條ノ規定ノ外肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

龍骨翼板ハ其ノ厚五吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ肋骨ノ間ニ於テ六呎以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ龍骨ニ緊著スヘシ

第二十三條　舷側厚板ハ本章第二十一條ノ規定ノ外敲釘ヲ以テ肋骨一本置ニ肋骨及ヒ梁受材、梁受板又ハ梁壓材ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第二十四條　木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇以上、幅六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第二十五條　斜帶板ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十七章　通風路及ヒ淦水路

第一條　各甲板ノ直下及ヒ其ノ梁受材若ハ梁受板又ハ副梁受板ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ通風路ヲ設クヘシ

船ノ首尾兩端ニ於ル艙内ニ於テハ前項通風路ノ外梁受材若ハ梁受板ト内

龍骨トノ間ニ通風路ヲ設クヘシ

第二條　肋骨ノ下面ニハ龍骨ノ兩側ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ淦水路ヲ設クヘシ但外板ノ縱緣上ニ設クヘカラス

第十八章　舵

第一條　舵心材ハ一材ニテ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但第二級船ニ於テハ其截面ヲ同表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以內減スルコトヲ得

第二條　蝶番ノ數及ヒ舵針ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但下端ノ舵架ハ蝶番ノ數ニ加算スルモノトス

第二級船ニ於テハ舵針ハ截面ヲ第三號表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以內減スルコトヲ得

第三條　舵ノ壺金ハ厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ、深ハ舵針ノ徑ノ一倍四分ノ一ヨリ少カルヘカラス

第四條　輕甲板船ニ於テハ舵心材及ヒ舵針ノ徑ヲ重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第五條　舵心材ハ力材ニ用ウルモノニ等キ敲釘ヲ以テ刻材ニ固著シ其ノ心距ハ十八吋ヲ超ユヘカラス

第六條　銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及ヒ舵針ハ喫水線以下ニ於テハ黃銅製ナルヲ要ス

第十九章　塡絮及ヒ船底包板

第一條　接合ヲ水密ト爲スヘキ部分ニハ塡絮ヲ施スヘシ

第二條　塡絮ヲ施シタル部分ハ喞筒ヲ以テ水ヲ注射スル水密試驗ニ堪フルコトヲ要ス

第三條　船底ニハ最大喫水線上少クモ一呎ノ所迄銅、黃銅若ハ木ノ船底包板ヲ張詰ムヘシ但適當ノ防腐劑ヲ塗抹スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十章　檣、帆架及ヒ斜檣

第一條　檣、帆架、斜檣ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ

名稱	材料	徑
「シップ」「バーク」及ヒ「ブリッグ」ノ正檣、前檣、前上檣及ヒ正上檣、「シップ」ノ後上檣	杉	長三呎ニ付一吋
「シップ」ノ後檣、「ブリガンタイン」「トップスルスクーナー」及ヒ「バーケンタイン」ノ前檣	杉	長四呎ニ付一吋
頂檣、帆架、「バーク」及ヒ「バーケンタイン」ノ後上檣、「バーケンタイン」及ヒ「ブリガンタイン」ノ正上檣	杉	長四呎ニ付一吋

「スクーナー」ノ檣				長九呎ニ付二吋	
「バーク」及ヒ「バーケンタイン」ノ後檣、「バークンタイン」及ヒ「ブリガンタイン」ノ正檣				長九呎ニ付二吋	
斜檣				長七呎ニ付四吋	
「ジブブーム」「フラインク、ジブブーム」及ヒ「ブーム」				長九呎ニ付二吋	

第二條　下檣ノ上端ノ徑ハ上檣ノ下端ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第三條　一材檣ノ寸法ヲ定ムルニハ內龍骨ノ上面ヨリ下檣索具ヲ取附クル處迄ヲ下檣ノ長ト爲シ第一條ノ規定ニ依ルヘシ

第一號表　材料

	甲	乙	丙	丁
龍骨、副龍骨、船首材、副船首材	樫、櫟	檜、栂、栗、樟、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—
船尾材、舵柱、船尾管胴材、舵心材	樫、櫟	—	—	—
肋骨、船尾横翼材、船尾縦翼材	櫟、樟	檜、栂、栗、タブ、	椎、桂、鹽地、セン、松	—
力材	樫、櫟、樟	檜、栂、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—
內龍骨、側內龍骨、副內龍骨	樫、櫟	檜、栂、櫟、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	杉、蝦夷松
側內厚板彎曲部縦通材	櫟	檜、栂、松、桂、鹽地	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松
梁壓材、船錨內部腰板	樫、櫟	檜、松、檜、鹽地、タブ	姫子松、赤身杉、桂	—
梁受材、梁受板、副梁受板	櫟	檜、松、檜、桂、鹽地、タブ	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松
船首尾肘材、梁曲材、根曲材	櫟、樟	檜、栂、松、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン	—
外板、外部腰板	櫟、檜	松、赤身杉	姫子松、杉、桂	蝦夷松
舷側厚板、龍骨翼板	櫟	檜、松	姫子松、赤身松、桂	杉
梁　縦　梁	櫟	檜、栂、檜、松、タブ、鹽地	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松
木甲板、副梁壓材	櫟	檜、松	姫子松、赤身杉、桂	杉、蝦夷松
甲板口ノ緣材	樫、櫟	檜、檜、栂、松、栗、タブ、鹽地	椎、桂、セン、赤身杉	杉
敲釘、打込釘	黃銅、銅	亞鉛鍍鐵	鐵	—
木釘、木栓	樫、櫟	檜	—	—
舵針、舵蝶番	黃銅	鐵	—	—
船底包板	銅	黃銅	木	—
檣孔板	櫟	檜、松、檜、タブ	椎、桂、鹽地、セン	—
檣、帆架、斜檣	櫟、檜	松、杉	—	—

第二號表　肋材ノ截面

第一數／材料	肋骨ノ心距	二材合			單材		
		肋根材	彎曲部材	頂材	肋根材	彎曲部材	頂材
		樑	樑	樑	樑	樑	樑
以上 未滿	吋	角 吋	角 吋	角 吋	角 吋	角 吋	角 吋
13 — 14	13	3½	3	2½	4¼	3¾	3¼
14 — 15	13	3¾	3¼	2¾	4½	4	3½
15 — 16	14	4	3½	3	4¾	4¼	3¾
16 — 17	14	4¼	3¾	3¼	5	4½	4
17 — 18	15	4½	4	3¼	5½	5	4¼
18 — 19	15	4¾	4¼	3½	5¾	5¼	4½
19 — 20	16	5	4½	3½	6	5½	4¾
20 — 21	16	5¼	4¾	3¾	6½	6	5
21 — 22	17	5½	5	3¾	6¾	6¼	5¼
22 — 23	17	5¾	5¼	4	7	6½	5½
23 — 24	18	6	5½	4	7¼	6½	5½
24 — 25	18	6¼	5½	4¼	7¾	7	5¾
25 — 26	19	6½	5¾	4¼	8	7	6
26 — 27	19	6¾	5¾	4½	8¼	7¼	6¼
27 — 28	20	7	6	4½	8½	7½	6½
28 — 29	21	7¼	6¼	4¾	9	7¾	6¾
29 — 30	22	7¾	6½	4¾	9½	8	7
30 — 31	23	8	6¾	4¾	9¾	8¼	7
31 — 32	24	8½	7	5	10¼	8½	7¼
32 — 33	24	8¾	7	5	10¾	9	7½
33 — 34	25	9	7¼	5	11	9¼	7¾
34 — 35	25	9¼	7¼	5¼	11¼	9½	8
35 — 36	26	9½	7½	5¼	11½	9¾	8
36 — 37	26	9¾	7½	5¼	11¾	10	8¼
37 — 38	27	10	7¾	5½	12	10¼	8½
38 — 39	27	10¼	7¾	5½	12½	10¾	8¾
39 — 40	28	10½	8¼	5¾	12¾	11¼	9
40 — 41	28	10¾	8¼	5¾	13	11½	9¼
41 — 42	29	11	8½	5¾	13½	12	9½
42 — 43	29	11¼	8½	6	13¾	12½	9½
43 — 44	30	11½	8¾	6	14	12¾	9¾

第三號表

法寸ノ等針舵ヒ及材心舵、板甲木、板外、板受梁、板張內、骨龍內、柱舵、材尾船、材首船、骨龍

第一數 ＼ 材料	龍骨、船首材船尾材及ヒ舵材	內龍骨	船尾橫翼材	彎曲部縱通材	側內厚板	上甲板梁受板正甲板梁及ヒ艙梁ノ副梁受板	上甲板梁ノ副梁受板	正甲板梁及ヒ艙梁ノ梁受板
	欅	欅	欅	松	松	欅	欅	欅
上以 滿未 3300—5000	角吋 7	角吋 $7\frac{1}{2}$	角吋	吋 $2\frac{1}{4}$	吋 吋 $7\times2\frac{1}{4}$	吋 吋 8×2	吋 吋 $7\times1\frac{3}{4}$	吋 吋
5000—8400	$7\frac{1}{2}$	8		$2\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{2}\times2$	$7\frac{1}{2}\times1\frac{3}{4}$	
8400—12500	8	$8\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$8\times2\frac{3}{4}$	$9\times2\frac{1}{4}$	8×2	$9\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$
12500—16700	$8\frac{1}{2}$	9	8	3	$8\frac{1}{2}\times3$	$9\frac{1}{4}\times2\frac{1}{4}$	$8\frac{1}{4}\times2$	$9\frac{3}{4}\times2\frac{1}{2}$
16700—20800	9	10	$8\frac{1}{4}$	3	9×3	$9\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{2}\times2\frac{1}{4}$	$10\times2\frac{3}{4}$
20800—25000	$9\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{2}$	$3\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{2}\times3\frac{1}{4}$	$9\frac{3}{4}\times2\frac{1}{2}$	$8\frac{3}{4}\times2\frac{1}{4}$	$10\frac{1}{4}\times2\frac{3}{4}$
25000—29100	10	11	9	$3\frac{1}{4}$	$10\times3\frac{1}{4}$	10×3	$9\times2\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{2}\times3$
29100—33300	$10\frac{1}{4}$	$11\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{4}\times3\frac{1}{2}$	10×3	$9\times2\frac{1}{2}$	$10\frac{3}{4}\times3$
33300—37500	$10\frac{1}{2}$	$11\frac{1}{2}$	$9\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{2}\times3\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{4}\times3\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{4}\times2\frac{1}{2}$	$11\times3\frac{1}{4}$
37500—42000	$10\frac{3}{4}$	$11\frac{3}{4}$	10	$3\frac{1}{2}$	$10\frac{3}{4}\times3\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{4}\times3\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{4}\times2\frac{1}{2}$	$11\times3\frac{1}{4}$
42000—50000	$11\frac{1}{4}$	12	$10\frac{1}{4}$	4	$11\frac{1}{4}\times4$	$10\frac{1}{2}\times3\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$	$11\frac{1}{4}\times3\frac{1}{2}$
50000—58400	$11\frac{3}{4}$	$12\frac{3}{4}$	$10\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{4}$	$11\frac{3}{4}\times4\frac{1}{4}$	$10\frac{1}{2}\times3\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{2}\times2\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{4}\times3\frac{1}{2}$
58400—66600	$12\frac{1}{4}$	$13\frac{1}{4}$	$11\frac{1}{4}$	$4\frac{1}{4}$	$12\frac{1}{4}\times4\frac{1}{4}$	$10\frac{3}{4}\times3\frac{3}{4}$	$9\frac{3}{4}\times2\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{2}\times3\frac{3}{4}$
66600—75000	13	14	12	$4\frac{1}{2}$	$13\times4\frac{1}{2}$	$10\frac{3}{4}\times3\frac{3}{4}$	$9\frac{3}{4}\times2\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{2}\times4$
75000—83000	$13\frac{1}{2}$	$14\frac{1}{2}$	$12\frac{1}{2}$	$4\frac{1}{2}$	$13\frac{1}{2}\times4\frac{1}{2}$	$10\frac{3}{4}\times4$	$9\frac{3}{4}\times3$	$11\frac{1}{2}\times4\frac{1}{4}$
83000—99900	14	15	13	$4\frac{3}{4}$	$14\times4\frac{3}{4}$	11×4	10×3	$11\frac{1}{4}\times4\frac{1}{2}$
99900—116000	$14\frac{1}{4}$	$15\frac{1}{4}$	$13\frac{1}{4}$	$4\frac{3}{4}$	$14\frac{1}{4}\times4\frac{3}{4}$	11×4	$10\times3\frac{1}{4}$	$11\frac{3}{4}\times4\frac{3}{4}$
116000—133000	$14\frac{1}{2}$	$15\frac{1}{2}$	$14\frac{1}{2}$	5	$14\frac{1}{2}\times5$	$11\times4\frac{1}{4}$	$10\times3\frac{1}{4}$	$11\frac{3}{4}\times4\frac{3}{4}$
133000—150000	$14\frac{3}{4}$	$15\frac{3}{4}$	$14\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{4}$	$14\frac{3}{4}\times5\frac{1}{4}$	$11\times4\frac{1}{4}$	$10\times3\frac{1}{2}$	$11\frac{3}{4}\times4\frac{3}{4}$
150000—167000	15	16	14	$5\frac{1}{2}$	$15\times5\frac{1}{2}$	$11\times4\frac{1}{4}$	$10\times3\frac{1}{2}$	$11\frac{3}{4}\times5$

第一數 ＼ 材料	船錫	龍骨翼板	外部腰板	舷側厚板	外板	內張板	木甲板	舵心材ノ徑	舵蝶番ノ數	舵針ノ徑
	欅	欅	松	欅	松	杉	松	欅	／	又黃銅
上以 滿未 3300—5000	吋	吋 吋 $7\times2\frac{1}{4}$	吋 $2\frac{1}{4}$	吋 吋 7×2	吋 $1\frac{1}{2}$	吋 1	吋 2	吋 7	2	吋 $1\frac{9}{16}$
5000—8400		$7\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$	$2\frac{1}{4}$	$7\frac{1}{2}\times2$	$1\frac{3}{4}$	$1\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{4}$	8	2	$1\frac{11}{16}$
8400—12500	2	$8\times2\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$8\times2\frac{1}{4}$	2	$1\frac{1}{2}$	$2\frac{1}{4}$	9	3	$1\frac{7}{16}$
12500—16700	2	$8\frac{1}{2}\times3$	$2\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{2}\times2\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{4}$	$1\frac{1}{2}$	$2\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{2}$	3	$1\frac{8}{16}$
16700—20800	$2\frac{1}{4}$	$9\times3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$9\times2\frac{1}{2}$	$2\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	10	3	$1\frac{9}{16}$
20800—25000	$2\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{2}\times3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$9\frac{1}{2}\times2\frac{1}{2}$	$2\frac{1}{2}$	$1\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{2}$	3	$1\frac{10}{16}$
25000—29100	$2\frac{1}{2}$	$10\times3\frac{1}{2}$	3	$10\times2\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	2	$2\frac{1}{2}$	11	3	$1\frac{11}{16}$
29100—33300	$2\frac{1}{2}$	$10\frac{1}{4}\times3\frac{3}{4}$	3	$10\frac{1}{4}\times3$	$2\frac{1}{2}$	2	$2\frac{1}{2}$	$11\frac{1}{4}$	3	$1\frac{12}{16}$
33300—37500	$2\frac{3}{4}$	$10\frac{1}{2}\times3\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	$10\frac{1}{2}\times3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{2}$	3	$1\frac{13}{16}$
37500—42000	$2\frac{3}{4}$	$10\frac{3}{4}\times4$	$3\frac{1}{4}$	$10\frac{3}{4}\times3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{4}$	3	$1\frac{14}{16}$
42000—50000	3	$11\frac{1}{4}\times4\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	$11\frac{1}{4}\times3\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$12\frac{1}{4}$	4	$1\frac{12}{16}$
50000—58400	$3\frac{1}{4}$	$11\frac{3}{4}\times4\frac{1}{2}$	$3\frac{1}{2}$	$11\frac{3}{4}\times3\frac{1}{2}$	3	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$12\frac{3}{4}$	4	$1\frac{14}{16}$
58400—66600	$3\frac{1}{2}$	$12\frac{3}{4}\times4\frac{3}{4}$	$3\frac{3}{4}$	$12\frac{1}{4}\times3\frac{3}{4}$	3	$2\frac{1}{2}$	3	$13\frac{3}{4}$	4	2
66600—75000	$3\frac{3}{4}$	$13\times5\frac{1}{4}$	4	$13\times3\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$	3	$13\frac{3}{4}$	4	$2\frac{2}{16}$
75000—83000	$3\frac{3}{4}$	$13\frac{1}{2}\times5\frac{1}{2}$	$4\frac{1}{4}$	$13\frac{1}{2}\times4$	$3\frac{1}{4}$	3	$3\frac{1}{4}$	$14\frac{1}{4}$	4	$2\frac{4}{16}$
83000—99900	4	$14\times5\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{2}$	14×4	$3\frac{1}{2}$	3	$3\frac{1}{4}$	$14\frac{1}{2}$	4	$2\frac{6}{16}$
99900—116000	4	$14\frac{1}{4}\times1$	$4\frac{3}{4}$	$14\frac{1}{4}\times4$	$3\frac{1}{2}$	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	$15\frac{1}{4}$	4	$2\frac{8}{16}$
116000—133000	4	$14\frac{1}{2}\times6\frac{1}{4}$	5	$14\frac{1}{2}\times4\frac{1}{4}$	4	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	$15\frac{1}{2}$	4	$2\frac{10}{16}$
133000—150000	4	$14\frac{3}{4}\times6\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{4}$	$14\frac{3}{4}\times4\frac{1}{4}$	4	$3\frac{1}{2}$	$3\frac{3}{4}$	$15\frac{3}{4}$	4	$2\frac{13}{16}$
150000—167000	4	$15\times6\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{4}$	$15\times4\frac{1}{4}$	4	$3\frac{1}{2}$	4	16	4	3

表　五

法寸ノ釘敲ニ竝板肘製鐵ヒ及材形山製鐵

第二數	厚ノ材曲梁								梁曲材ノ幅		梁曲材ノ長		梁曲材ノ側腕ノ長	
	咽喉部ノ所ニテ於		咽喉部ノ所ニテ於		梁腕ノ端ニテ於		側腕ノ端ニテ於							
	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材
上以 滿未 3300—5000	吋 $1\frac{3}{4}$	吋	吋 $\frac{3}{4}$	吋	吋 $\frac{3}{8}$	吋	吋 $\frac{5}{8}$	吋	吋 2	吋	吋 15	吋	吋 22	吋
5000—8400	$1\frac{3}{4}$		$\frac{3}{4}$		$\frac{3}{8}$		$\frac{5}{8}$		$2\frac{1}{4}$		15		22	
8400—12500	2		1		$\frac{3}{8}$		$\frac{5}{8}$		$2\frac{1}{4}$		15		22	
12500—16700	2		1		$\frac{3}{8}$		$\frac{5}{8}$		$2\frac{1}{4}$		18		27	
16700—20800	2		1		$\frac{3}{8}$		$\frac{5}{8}$		$2\frac{1}{4}$		18		27	
20800—25000	$2\frac{1}{4}$		$1\frac{1}{8}$		$\frac{3}{8}$		$\frac{5}{8}$		$2\frac{1}{2}$		18		27	
25000—29100	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{8}$	$1\frac{1}{4}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	18	24	27	36
29100—33300	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{8}$	$1\frac{1}{4}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	21	28	32	42
33300—37500	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{8}$	$1\frac{1}{4}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{4}$	$2\frac{3}{4}$	3	21	28	32	42
37500—42000	$2\frac{1}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{8}$	$1\frac{1}{4}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{4}$	$2\frac{3}{4}$	3	21	28	32	42
42000—50000	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$1\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	$2\frac{3}{4}$	3	24	32	36	48
50000—58400	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$1\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	3	$3\frac{1}{4}$	24	32	36	48
58400—66600	$2\frac{1}{2}$	$2\frac{3}{4}$	$1\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	3	$3\frac{1}{4}$	24	32	36	48
66600—75000	$2\frac{3}{4}$	3	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{5}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	3	$3\frac{1}{4}$	27	36	40	54
75000—83000	$2\frac{3}{4}$	3	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{5}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	3	$3\frac{1}{4}$	27	36	40	54
83000—99900	$2\frac{3}{4}$	3	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{5}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	3	$3\frac{1}{2}$	27	36	4	54
99900—116000	3	$3\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{4}$	$1\frac{7}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	30	40	45	60
116000—133000	3	$3\frac{1}{4}$	$1\frac{3}{4}$	$1\frac{7}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	30	40	45	60
133000—150000	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	2	$2\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{2}$	4	33	44	50	66
150000—167000	$3\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$	2	$2\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{2}$	4	33	44	50	66

第四號表

面截ノ梁

釘敲			ルス用代ニ材曲梁板肘ヒ及材形山		第二數
咽喉部	中間	腕端	材形山	板肘	
吋 $\frac{9}{16}$	吋 $\frac{8}{16}$	吋 $\frac{7}{16}$	吋 吋 吋 $2\times2\times\frac{4}{16}$	吋 吋 吋 $8\times10\times\frac{4}{16}$	上以 滿未 3300—5000
$\frac{10}{16}$	$\frac{9}{16}$	$\frac{8}{16}$	$2\times2\times\frac{4}{16}$	$9\times11\times\frac{4}{16}$	5000—8400
$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$\frac{9}{16}$	$2\times2\times\frac{5}{16}$	$10\times12\times\frac{5}{16}$	8400—12500
$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$\frac{9}{16}$	$2\frac{1}{4}\times2\times\frac{5}{16}$	$10\times13\times\frac{5}{16}$	12500—16700
$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$\frac{9}{16}$	$2\frac{1}{2}\times2\times\frac{5}{16}$	$10\times14\times\frac{5}{16}$	16700—20800
$\frac{12}{16}$	$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$2\frac{1}{2}\times2\times\frac{5}{16}$	$12\times16\times\frac{5}{16}$	20800—25000
$\frac{12}{16}$	$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$3\times2\frac{1}{2}\times\frac{5}{16}$	$12\times16\times\frac{5}{16}$	25000—29100
$\frac{12}{16}$	$\frac{11}{16}$	$\frac{10}{16}$	$3\times2\frac{1}{2}\times\frac{5}{16}$	$12\times16\times\frac{5}{16}$	29100—33300
$\frac{13}{16}$	$\frac{12}{16}$	$\frac{10}{16}$	$3\times2\frac{1}{2}\times\frac{5}{16}$	$12\times18\times\frac{6}{16}$	33300—37500
$\frac{13}{16}$	$\frac{12}{16}$	$\frac{11}{16}$	$3\times2\frac{1}{2}\times\frac{6}{16}$	$12\times18\times\frac{6}{16}$	37500—42000
$\frac{13}{16}$	$\frac{12}{16}$	$\frac{11}{16}$	$3\frac{1}{4}\times3\times\frac{6}{16}$	$14\times21\times\frac{6}{16}$	42000—50000
$\frac{14}{16}$	$\frac{13}{16}$	$\frac{11}{16}$	$3\frac{1}{4}\times3\times\frac{6}{16}$	$14\times21\times\frac{6}{16}$	50000—58400
$\frac{14}{16}$	$\frac{13}{16}$	$\frac{11}{16}$	$3\frac{1}{4}\times3\times\frac{7}{16}$	$14\times22\times\frac{7}{16}$	58400—66600
$\frac{14}{16}$	$\frac{13}{16}$	$\frac{11}{16}$	$3\frac{1}{2}\times3\times\frac{7}{16}$	$14\times22\times\frac{7}{16}$	66600—75000
$\frac{15}{16}$	$\frac{14}{16}$	$\frac{12}{16}$	$3\frac{1}{2}\times3\frac{1}{4}\times\frac{7}{16}$	$16\times23\times\frac{7}{16}$	75000—83000
$\frac{15}{16}$	$\frac{14}{16}$	$\frac{12}{16}$	$3\frac{1}{2}\times3\frac{1}{2}\times\frac{7}{16}$	$16\times23\times\frac{7}{16}$	83000—99900
1	$\frac{14}{16}$	$\frac{12}{16}$	$4\times3\frac{1}{2}\times\frac{7}{16}$	$16\times24\times\frac{7}{16}$	99900—116000
1	$\frac{14}{16}$	$\frac{12}{16}$	$4\times3\frac{1}{2}\times\frac{8}{16}$	$16\times24\times\frac{8}{16}$	116000—133000
$1\frac{1}{16}$	1	$\frac{13}{16}$	$4\times4\times\frac{8}{16}$	$18\times26\times\frac{8}{16}$	133000—150000
$1\frac{1}{16}$	1	$\frac{13}{16}$	$4\times4\times\frac{8}{16}$	$18\times26\times\frac{8}{16}$	150000—167000

長ノ梁 \ 材料	艙梁 松	甲板梁 松
以上 未滿	角吋	角吋
呎 呎 14—15	$7\frac{1}{2}$	$5\frac{3}{4}$
15—16	$7\frac{3}{4}$	6
16—17	8	$6\frac{1}{4}$
17—18	$8\frac{1}{2}$	$6\frac{1}{2}$
18—19	$8\frac{3}{4}$	$6\frac{3}{4}$
19—20	9	7
20—21	$9\frac{1}{4}$	$7\frac{1}{4}$
21—22	$9\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{2}$
22—23	10	$7\frac{3}{4}$
23—24	$10\frac{1}{4}$	8
24—25	$10\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{4}$
25—26	11	$8\frac{1}{2}$
26—27	$11\frac{1}{4}$	$8\frac{1}{2}$
27—28	$11\frac{1}{2}$	$8\frac{3}{4}$
28—29	12	9
29—30	$12\frac{1}{4}$	9
30—31	$12\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{4}$
31—32	$12\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{4}$
32—33	$12\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{2}$

第六號表

固著釘ノ徑

第二數	力材及ヒ根曲材ノ敲釘	龍骨、內龍骨及ヒ肘材ノ咽喉部敲釘	龍骨及ヒ內龍骨、肘材ノ腕、正甲板梁及ヒ艙梁ノ受材若ハ梁受板、梁壓材及ヒ副梁受板ノ固著釘	肋骨材トノ固著敲釘上甲板梁ノ受材若ハ梁受板、梁壓材及ヒ副梁受板ノ固著釘	龍骨及ヒ內龍骨ノ嵌接、側內龍骨、肘材ノ腕、正甲板梁ノ受材若ハ梁受板ノ固著釘	彎曲部、繞通材、側內厚板、外部厚板、龍骨翼板、舷側厚板ノ固著釘及ヒ同接合敲釘	外板ノ敲釘	木釘（樫）	第二數
上以 滿未 3300-5000	吋 12/16	吋 10/16	吋 9/16	吋 8/16	吋 7/16	吋 7/16	吋 7/8		上以 滿未 3300-5000
5000-8400	13/16	11/16	10/16	9/16	8/16	8/16	7/8		5000-8400
8400-12500	14/16	12/16	11/16	10/16	9/16	8/16	1		8400-12500
12500-16700	14/16	12/16	11/16	10/16	9/16	9/16	1		12500-16700
16700-20800	15/16	13/16	12/16	11/16	10/16	9/16	1		16700-20800
20800-25000	15/16	13/16	12/16	11/16	10/16	10/16	1		20800-25000
25000-29100	1	14/16	12/16	11/16	10/16	10/16	1		25000-29100
29100-33300	1	14/16	12/16	11/16	10/16	10/16	1		29100-33300
33300-37500	1	14/16	12/16	11/16	11/16	10/16	1 1/8		33300-37500
37500-42000	1	14/16	12/16	11/16	11/16	10/16	1 1/8		37500-42000
42000-50000	1 1/16	15/16	13/16	12/16	11/16	10/16	1 1/8		42000-50000
50000-58400	1 2/16	1	14/16	13/16	12/16	11/16	1 1/8		50000-58400
58400-66600	1 2/16	1	14/16	13/16	12/16	11/16	1 1/4		58400-66600
66600-75000	1 3/16	1 3/16	15/16	13/16	13/16	11/16	1 1/4		66600-75000
75000-83000	1 4/16	1 2/16	15/16	14/16	13/16	11/16	1 1/4		75000-83000
83000-99900	1 4/16	1 2/16	1	14/16	14/16	12/16	1 3/8		83000-99900
99900-116000	1 4/16	1 2/16	1	14/16	14/16	12/16	1 3/8		99900-116000
116000-133000	1 5/16	1 3/16	1 2/16	15/16	14/16	12/16	1 3/8		116000-133000
133000-150000	1 5/16	1 3/16	1 2/16	15/16	14/16	12/16	1 3/8		133000-150000
150000-167000	1 6/16	1 4/16	1 2/16	1	15/16	12/16	1 3/8		150000-167000

大正三年四月廿九日印刷
大正三年五月一日發行

農商務省水產局

印刷者 東京市芝區濱松町一丁目七番地 松本魁

印刷所 東京市京橋區宗十郎町十五番地 合資會社 東京國文社

214
829